

車載型デジタル簡易無線機 IC-DU7505N



この無線機を使用するには、総務省の無線局の免許が必要です。
免許を受けずに使用すると、電波法第 110 条の規定により処罰
されます。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた国内業務用車載型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の概要

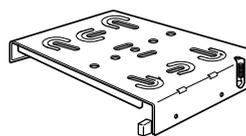
- ◎本製品同士(2台)をIPネットワークで接続することで、地下と地上など、無線機同士で直接無線通信できない相手と通信できます。
 - ◎内線通話機能^{★1}により、地下と地上などに設置した本製品同士がIPネットワークで内線通話できます。
 - ◎IP54(防塵形と防まつ形)^{★2}の性能に対応できるように設計されています。
 - ◎コマンドマイク(別売品:HM-253)についても、IP54の性能があります。
 - ◎チャンネル番号音声案内機能により、通話チャンネルを切り替えたとき、選択した通話チャンネル番号を音声で読み上げます。
 - ◎通話チャンネル番号の代わりに、漢字、英数字、記号、外字^{★3}を使用した名称が表示できます。^{★1}
 - ◎個別呼び出し機能^{★1}や緊急呼び出し機能^{★1}に対応しています。
 - ◎ネットワーク機能^{★1}の設定を「OFF」に変更にすると、本製品の移動機として使用できます。
 - ◎卓上電源装置(別売品:PS-230A)と組み合わせることで、屋内のAC電源を使用できます。
 - ◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3B」、「3C」、「3D」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。^{★4}
- ※中継機の使用については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

- ★1 お買い上げの販売店で設定が必要な機能です。
- ★2 「IP表記」(P.ii)をご覧ください。
- ★3 HM-253(コマンドマイク)を接続しているときは、外字を表示できません。
- ★4 AMBE+2TM方式を採用している機種に対応しています。

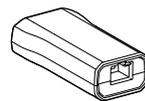
登録商標/著作権

アイコム、ICOM、ICOMロゴ、ポケットビーブ、コマンドマイクは、アイコム株式会社の登録商標です。
AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。
Bluetoothのワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、アイコム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。
本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

付属品



車載ブラケット



ネットワーク接続ユニット
(UX-268)



取り付けネジ一式
(取り付けブラケット用)



DC電源ケーブル



圧着端子
(バッテリー接続用)



マイクハンガー
(取り付けネジ一式を含む)



予備ヒューズ
(125V/5A)

- 簡易取扱説明書
- ご注意と保守について
- 保証書

取扱説明書の内容

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。
本書は、コマンドマイク(別売品:HM-253)を使用して説明しています。

はじめに

電波法上のご注意

- ◎本製品は、電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
ご自分で分解や改造をしないでください。
- ◎免許状に記載されている範囲内で通信してください。
- ◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎免許の有効期限は、免許取得日から数えて5年間です。
再免許の申請は、免許の切れる6カ月前から3カ月前のあいだに手続きをしてください。
- ◎使用できるのは、日本国内に限られています。

防塵/防水性能

マイクロホンが無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- ◎雨の中や水滴が付着、またはぬれた手で、マイクロホンを付けたり、はずしたりしたとき
- ◎コマンドマイク(HM-253)、または防水スピーカーマイクロホン(HM-254)が接続されていない、または正しく接続されていない
- ◎落としたりして、強い衝撃が加わったとき
- ◎本製品を分解、または改造したとき
- ◎水や湯を水道の蛇口から直接当てたとき
- ◎水や海水につけたとき
- ◎-20℃～+60℃以外の環境で使用したとき

IP表記

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

- IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのち取り出して、無線機として動作すること
- IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

別売品の使用による防塵/防水性能

防水スピーカーマイクロホン(HM-254)、コマンドマイク(HM-253)を無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

※上記以外の別売品(9章)については、防塵/防水構造になっていませんので、ご注意ください。

取り扱い上のご注意

- ◎テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなして設置してください。
- ◎磁気カードをマイクロホンやスピーカーに近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- ◎本製品は、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的とした製品ではありません。周囲の状況(ネットワークの状態、天候、山や建物などの障害物)など、周囲の環境によって、通信できないことがあります。
緊急呼び出し関連の機能についても、補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

音声圧縮(符号化)方式

本製品は、米国DVSI社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Patent Nos. #8,359,197 and #7,970,606.

はじめに

電波干渉についてのご注意

Bluetoothの通信では2.4GHz帯の電波を使用するため、次のことがらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

- ◎この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。
- ◎万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変更するか、Bluetoothのご使用をお控えください。
- ◎その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンター(P.10-5)へお問い合わせください。

2.4GHz現品表示記号の意味

「2.4」:2.4GHz帯を使用する無線設備

「FH」:FHSS方式

「1」:想定干渉距離が10m以下

「---」:全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避不可



GPSに関する注意事項

GPS(Global Positioning System)は、米国が開発、および運用管理をしています。

同国の政策上、予告なしに測位精度の悪化、GPS衛星の調整、試験、および軌道修正などで、いくつかの衛星信号が発信停止する場合や、メンテナンスなどで衛星から異常電波が発信される場合があります。

このような場合、誤作動したり、測位精度が著しく悪化したりする場合があります。

下記の注意事項を十分配慮して、GPSをお使いください。

測位精度に関する注意事項

受信衛星の配置や電磁障害、受信信号のマルチパスなどの影響により、測位精度が著しく悪化した状態(位置飛びなど)が発生する場合がありますので、ご注意ください。

装備に関する注意事項

本製品は、ノイズを発生する回路や機器からなるべくはなしてください。

GPS信号の周波数帯(1.575GHz付近)や、その整数分の1となる周波数の高調波が、受信や測位に影響を与える場合があります。

放熱について

本製品は長時間運用すると、後面部の温度が高くなります。子供や周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。また、本製品はできるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所に設置してください。

はじめに

IPネットワーク接続の概要

本製品は、「遠隔制御システム」と、「エリア拡張システム」という2つの通信システムを使用できます。IPネットワークの接続方法や設定のしかたについては、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

◎遠隔制御システム

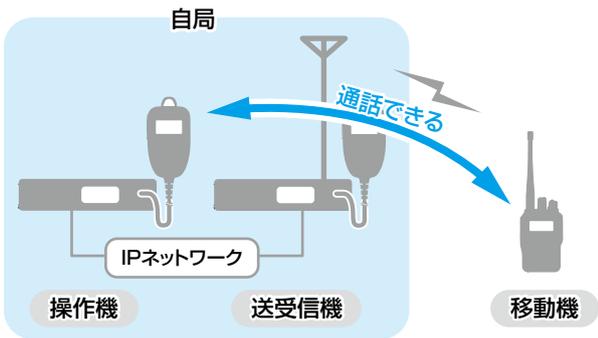
2台のIC-DU7505NをIPネットワークと接続して、遠隔制御するシステムです。

2台のIC-DU7505Nの動作モードを操作機と送受信機にそれぞれ設定し、操作機で送受信機を遠隔操作します。

送信するときは、操作機の[PTT]を押して、通常の通信と同じように通話します。

IPネットワークを経由して送受信機から電波を送信します。

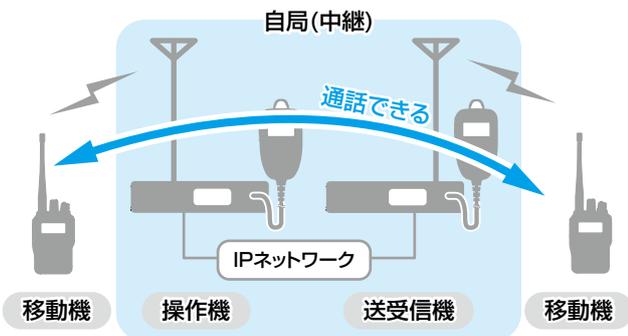
また、送受信機で受信した信号は、IPネットワークを経由して操作機で受信します。



◎エリア拡張システム

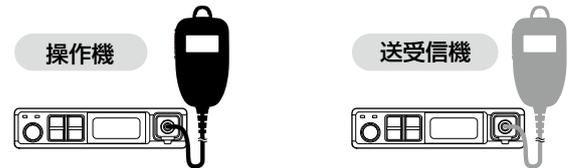
2台のIC-DU7505NをIPネットワークと接続して、通話エリアを拡張するシステムです。

移動機間通信機能により、移動機(IC-DU75など)が送信した電波をIC-DU7505N(操作機/送受信機)に接続されたIPネットワークを使用して中継します。



本書は、お買い上げの販売店で、動作モードが「操作機」と「送受信機」に設定された本製品を「操作機」、「送受信機」と記載しています。

※設定については、お買い上げの販売店にご依頼ください。



◎操作機 : おもに送信操作や通話チャンネルの選択操作をします。

◎送受信機 : おもに送信と受信をする側の無線機になります。

もくじ

はじめに	i	5. そのほかの機能について	5-1
本製品の概要	i	■ ロック機能	5-1
登録商標/著作権	i	■ 受信専用機能	5-1
付属品	i	■ モニター機能	5-1
取扱説明書の内容	i	■ 送受信機で通話内容を聞くには	5-1
電波法上のご注意	ii	■ 内線通話機能	5-2
防塵/防水性能	ii	■ ポケットビープ機能	5-2
IP表記	ii	■ 呼び出しメロディー機能	5-3
別売品の使用による防塵/防水性能	ii	■ 着信表示	5-3
取り扱い上のご注意	ii	■ 秘話機能	5-3
音声圧縮(符号化)方式	ii	■ ユーザーコードによるグループ通話機能	5-4
電波干渉についてのご注意	iii	■ 個別呼び出し機能	5-6
2.4GHz現品表示記号の意味	iii	■ ショートメッセージ機能	5-9
GPSに関する注意事項	iii	■ 発着信履歴機能	5-11
放熱について	iii	■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)	5-13
IPネットワーク接続の概要	iv	■ GPS機能	5-14
1. 各部の名称と機能	1-1	■ 送信出力の切り替え機能	5-15
■ 前面部(操作機側)	1-1	■ 設定が必要な機能について	5-15
■ 前面部(送受信機側)	1-2	6. Bluetooth機能	6-1
■ 表示部(操作機側)	1-3	■ Bluetooth部の仕様	6-1
■ 表示部(送受信機側)	1-5	■ ペ어링/接続のしかた	6-1
■ 後面部	1-7	■ Bluetoothの初期化	6-3
2. 無線機を起動するには	2-1	■ Bluetoothの設定項目一覧	6-4
■ 通話するときのアドバイス	2-2	7. サブチャンネルPTT機能	7-1
3. 遠隔制御システムでの通話方法	3-1	■ サブチャンネルPTT機能とは	7-1
■ 「遠隔制御システム」について	3-1	■ サブチャンネルを設定する	7-1
■ 移動機と通話するには	3-2	■ サブチャンネルで送信する	7-2
4. エリア拡張システムでの通話方法	4-1	■ サブチャンネルで個別呼び出しをする	7-2
■ 「エリア拡張システム」について	4-1	■ サブチャンネルで受信する	7-2
■ 移動機同士が通話するには	4-2	8. 各種機能の設定	8-1
■ 操作機と移動機が通話するには	4-3	■ 設定一覧	8-1
		■ 設定モードに移行するには	8-1
		■ 設定のしかた	8-1
		■ 設定項目について	8-2
		9. 別売品とその使いかた	9-1
		■ 別売品についてのご注意	9-1
		■ ホームページに掲載	9-1
		■ 別売品一覧表	9-1
		■ HM-254(防水スピーカーマイクロホン)	9-1
		■ AM-6(マグネット基台付きマイクロホン)	9-2
		■ SM-28(デスクトップマイクロホン)	9-3
		10. 保守について	10-1
		■ 日常の保守と点検について	10-1
		■ ヒューズの交換について	10-1
		■ 外部機器接続ケーブルの端子について	10-2
		■ 故障かな?と思ったら	10-4
		■ アフターサービスについて	10-5

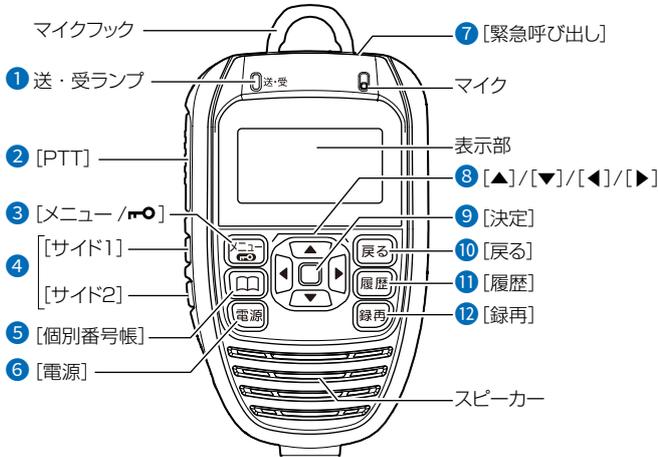
1

各部の名称と機能

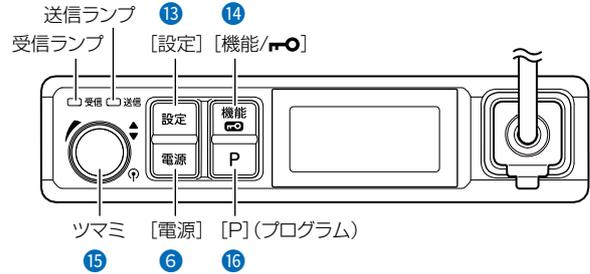
■ 前面部(操作機側)

動作モードが「操作機」に設定された無線機の操作について説明します。

<コマンドマイク(別売品:HM-253)>



<無線機の操作キー>



★お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

1 送・受ランプ

緑色に点灯: 受信(受信ランプも同じ動作)
橙色に点滅: 着信時★(P.5-3)
赤色に点灯: 送信(送信ランプも同じ動作)

2 [PTT]

押すと送信状態、はなすと待ち受け状態に切り替わります。

3 [メニュー/Ⓜ]

◎短く押すとメニュー画面が表示されます。★
◎長く押すごとに、ロック機能をON/OFFします。

4 [サイド1]/[サイド2]★

機能を割り当てて使用するキーです。

5 [個別番号帳]★

押すごとに、全体/基地/個別/グループ番号を選択する画面に切り替わります。

6 [電源]

電源をON/OFFします。

7 [緊急呼び出し]★

緊急呼び出し機能が設定されている場合、長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。(P.5-13)

8 [▲]/[▼]/[◀]/[▶]

[▲]/[▼]: 通話チャンネル番号、各種項目の選択
[◀]/[▶]: 音量調整、各種画面の階層移動

9 [決定]

選択した内容を確定します。

10 [戻る]

メニュー画面 : 1つ上の階層に戻る
通話後 : 強制的に終話する

11 [履歴]★

押すごとに、着信/発信/録音履歴画面に切り替わります。

12 [録再]★

◎短く押すごとに、録音/一時停止に切り替わります。
◎長く押すと、最新録音内容を再生します。
※ネットワーク機能がONのときは、動作しません。

13 [設定]★

◎押すごとに、全体/基地/個別/グループ番号を選択する画面に切り替わります。
※ツマミを回すと、個別番号、またはグループ番号を選択できます。
◎通話後、短く押すと、強制的に終話します。

14 [機能/Ⓜ]

◎短く押してから、ツマミを回すと、ユーザーコードを変更できます。
◎長く押すごとに、ロック機能をON/OFFします。

15 ツマミ

音量が変わります。
※別売品のHM-254、AM-6、SM-28を使用する場合は、ツマミを押してからツマミを回すと、通話チャンネル番号を選択できます。

16 [P] (プログラム)★

押しているあいだは、モニター機能が動作します。

ご参考

コマンドマイク(別売品:HM-253)が接続されているときは、無線機本体のキーでチャンネル番号、個別番号、グループ番号、ユーザーコードの切り替え操作が無効になります。

1 各部の名称と機能

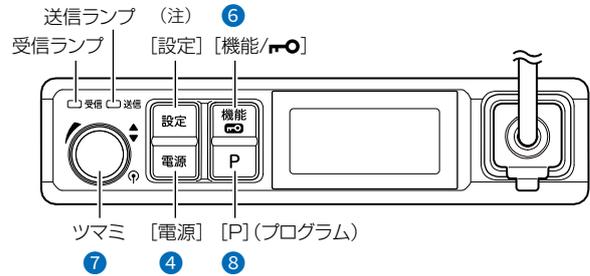
■ 前面部(送受信機側)

動作モードが「送受信機」に設定されたコマンドマイクと無線機の操作について説明します。

<コマンドマイク(別売品:HM-253)>



<無線機の操作キー>



★お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

(注) : 送受信機では操作できません。

① 送・受ランプ

緑色に点灯: 受信(受信ランプも同じ動作)
橙色に点滅: 着信時★(P.5-3)
赤色に点灯: 送信(送信ランプも同じ動作)

② [PTT]

内線通話機能★動作中のときだけ、押し続けているあいだは、操作機の相手に内線できます。(P.5-2)

③ [メニュー/⏻]

長く押しすごとに、ロック機能をON/OFFします。

④ [電源]

電源をON/OFFします。

⑤ [▲]/[▼]/[◀]/[▶]

[▲]/[▼]: 操作不可
[◀]/[▶]: 音量調整

⑥ [機能/⏻]

長く押しすごとに、ロック機能をON/OFFします。
※コマンドマイク(別売品:HM-253)が接続されているときは、操作できません。

⑦ ツマミ

音量が変わります。

⑧ [P](プログラム)★

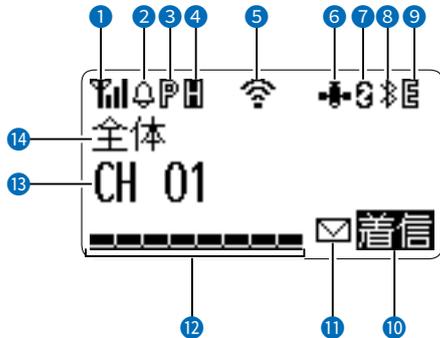
押し続けているあいだは、モニター機能が動作します。
※ネットワーク機能がONのとき、[P]の動作をモニター以外の用途に割り当てている場合は、動作しません。

1 各部の名称と機能

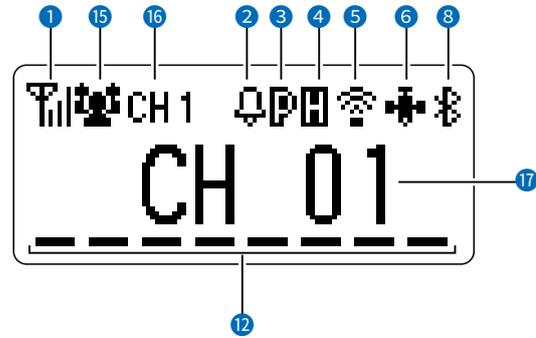
■ 表示部(操作機側)

動作モードが「操作機」に設定された無線機と、その無線機に接続されたコマンドマイクの表示です。

<コマンドマイク(別売品:HM-253)>



<無線機>



★1 コマンドマイク(別売品:HM-253)と無線機本体の表示部に表示されます。

★2 お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、表示されます。

1 電波状態表示^{*1}

エリア拡張システム使用時の表示です。(P.4-1)
送信権を操作機に切り替えたとき(「」表示中)、
操作機に接続されたアンテナで受信している電波の
強度が、下図の3段階(目安)で表示されます。

 (弱)  (中)  (強)

※「」表示中、「」は、電源が入っているときは常に
表示されています。

2 ベル表示^{*1*2}

ポケットビープ機能が設定されているときに表示さ
れます。(P.5-2)
呼び出しを受けると、点滅します。

3 Pベル表示^{*1*2}

Pベル機能が設定されているときに表示されます。
(P.8-2)

4 送信出力表示^{*1}

各通話チャンネルの送信出力(High/Low)設定が表
示されます。

 :ハイパワー(5W)

 :ローパワー(1W)

 :受信専用チャンネル選択時

5 送信権表示^{*1}

IPネットワークに接続しているとき、送信できる権利
がどちらにあるかが表示されます。

 :送信権が送受信機にあるとき

 :送信権が操作機にあるとき

※送信権が操作機にあるときは、電波状態表示とS
メーター表示も表示されます。

※送信権とは、電波が送信できる権利のことです。

6 GPS表示^{*1*2}

GPSユニット(別売品:UX-267)使用時、GPSレシー
バーの受信状態が表示されます。(P.5-14)

消灯:GPS機能を使用していないとき

点滅:自局の位置情報を受信(測位)中

表示:GPS機能ON時で自局の位置情報の測位が完了

7 秘話表示^{*2}

※秘話機能設定時、無線機本体では、「」で表示(例:
 1)されます。(P.5-3)

8 Bluetooth機能表示^{*1}

 :Bluetooth機能がON(P.6-1)

 :Bluetooth機器と接続中

9 緊急呼び出し(エマージェンシー)表示^{*2}

緊急呼び出し機能が設定されているとき、表示されます。

10 通話/呼出/着信表示^{*2}

 :個別呼び出し機能で通話中

 :個別/基地局呼び出しで送信中

 :自局宛での個別呼び出しを受信したとき

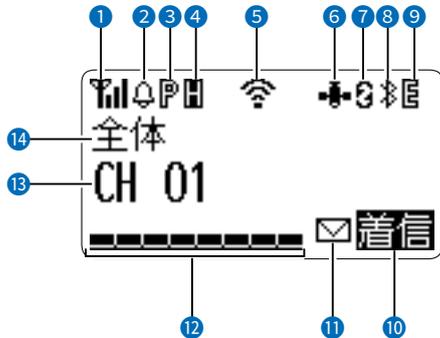
11 ショートメッセージ表示^{*2}

ショートメッセージを送受信したとき、表示されます。

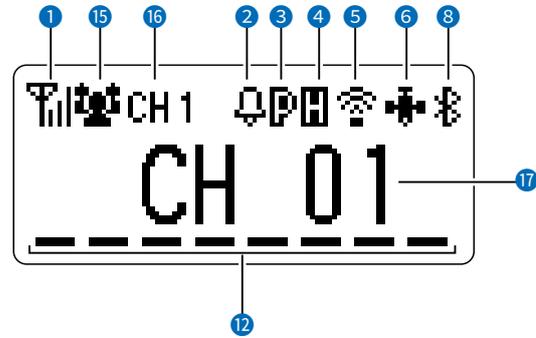
1 各部の名称と機能

■ 表示部(操作機側)

<コマンドマイク(別売品:HM-253)>



<無線機>



★1 コマンドマイク(別売品:HM-253)と無線機本体の表示部に表示されます。

★2 お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、表示されます。

12 Sメーター表示

エリア拡張システム使用時の表示です。(P.4-1)
送信権を操作機に切り替えたとき(「」表示中)、
操作機に接続されたアンテナで受信している電波の
強度が、下図の8段階(目安)で表示されます。



13 CH表示

通話チャンネルが表示されます。
待ち受け状態のとき、送受信機の通話チャンネル番号
が表示されます。

※「」が表示されているときは、操作機の通話チャンネル番号が表示されます。

※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、通話チャンネル番号の代わりに設定された名称が表示されます。

14 個別呼び出し種別表示*2

個別呼び出し機能が設定されているとき、個別呼び出しの種類が表示されます。

※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、個別番号、基地局番号、グループ番号の代わりに設定された名称が表示されます。

15 個別呼び出し表示*2

※コマンドマイク(別売品:HM-253)が接続されているときは、表示されません。

個別呼び出し機能が設定されているときは、個別呼び出しの選択状態が表示されます。

-  : 個別
-  : 全体
-  : 基地局
-  : グループ
-  : グループ(メンバー指定あり)

16 ガイド表示

◎操作機が遠隔制御システムの場合
送受信機の通話チャンネル番号が表示されます。

◎操作機がエリア拡張システムの場合
操作機の通話チャンネル番号が表示されます。
※「」が表示されているときは、送受信機の通話チャンネル番号が表示されます。

※秘話機能*が設定されているときは、「」で表示(例: 1)されます。

17 個別番号/設定内容表示

◎コマンドマイク(別売品:HM-253)接続時
操作機の音量レベル(0~32)が表示されます。

◎コマンドマイク(別売品:HM-253)以外接続時
送受信機の通話チャンネル番号、全体/基地/個別/グループ番号が表示されます。

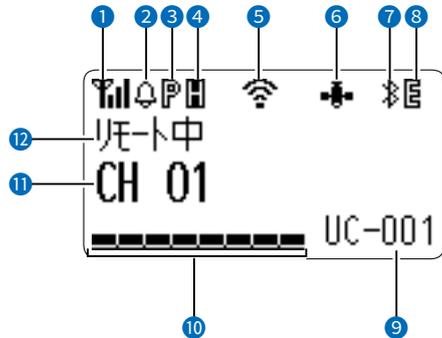
※「」が表示されているときは、操作機の通話チャンネル番号が表示されます。

1 各部の名称と機能

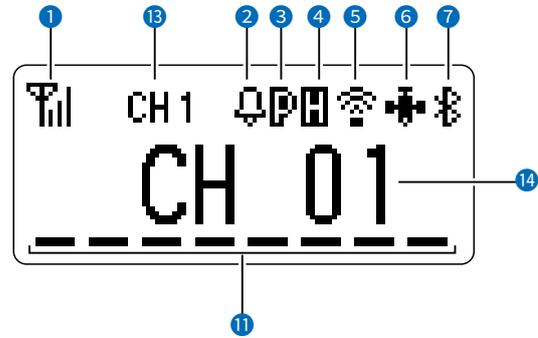
■ 表示部(送受信機側)

動作モードが「送受信機」に設定された無線機と、その無線機に接続されたコマンドマイクの表示です。

<コマンドマイク(別売品:HM-253)>



<無線機>



★1 コマンドマイク(別売品:HM-253)と無線機本体の表示部に表示されます。

★2 お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、表示されます。

① 電波状態表示^{*1}

操作機、または送受信機に接続されたアンテナで受信している電波の強度が、下図の3段階(目安)で表示されます。

📶 (弱) 📶 (中) 📶 (強)

※「📶」は、電源が入っているときは常に表示されています。

② ベル表示^{*1*2}

ポケットビープ機能が設定されているときに表示されます。(P.5-2)

呼び出しを受けると、点滅します。

③ Pベル表示^{*1*2}

Pベル機能が設定されているときに表示されます。(P.8-2)

④ 送信出力表示^{*1}

各通話チャンネルの送信出力(High/Low)設定が表示されます。

🔊:ハイパワー(5W)

🔊:ローパワー(1W)

🔊:受信専用チャンネル選択時

⑤ 送信権表示^{*1}

IPネットワークに接続しているとき、送信できる権利がどちらにあるかが表示されます。

📶:送信権が送受信機にあるとき

📶:送信権が操作機にあるとき

※送信権とは、電波が送信できる権利のことです。

⑥ GPS表示^{*1*2}

GPSユニット(別売品:UX-267)使用時、GPSレシーバーの受信状態が表示されます。(P.5-14)

消灯:GPS機能を使用していないとき

点滅:自局の位置情報を受信(測位)中

表示:GPS機能ON時で自局の位置情報の測位が完了

⑦ Bluetooth機能表示^{*1}

📶:Bluetooth機能がON(P.6-1)

📶:Bluetooth機器と接続中

⑧ 緊急呼び出し(エマージェンシー)表示^{*2}

緊急呼び出し機能が設定されているとき、表示されます。

⑨ ユーザーコード表示^{*2}

各通話チャンネルのユーザーコードが表示されます。

UC-OFF :ユーザーコードなし

UC-001~UC-511:ユーザーコードあり

⑩ Sメーター表示

送受信機に接続されたアンテナで受信している電波の強度が、下図の8段階(目安)で表示されます。

📶 (弱) — — — —

📶 (中) — — — — — — — —

📶 (強) — — — — — — — — — —

⑪ CH表示

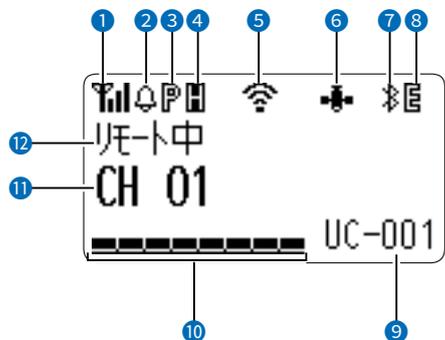
待ち受け状態のとき、送受信機の通話チャンネル番号が表示されます。

※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、通話チャンネル番号の代わりに設定された名称が表示されます。

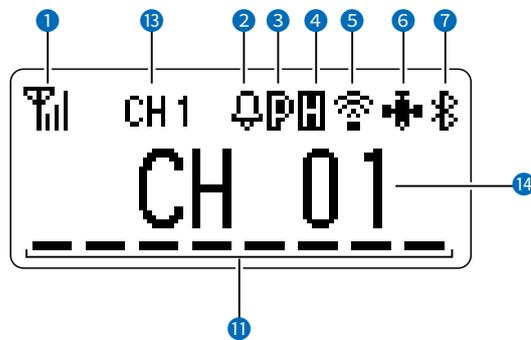
1 各部の名称と機能

■ 表示部(送受信機側)

<コマンドマイク(別売品:HM-253)>



<無線機>



★1 コマンドマイク(別売品:HM-253)と無線機本体の表示部に表示されます。

★2 お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、表示されます。

⑫ リモート中表示

IPネットワークで接続されているときに表示されます。

※接続できなかったときは、「 回線エラー」が表示されます。

⑬ ガイド表示

送受信機の通話チャンネル番号が表示されます。

※秘話機能*が設定されているときは、「」で表示(例: 1)されます。

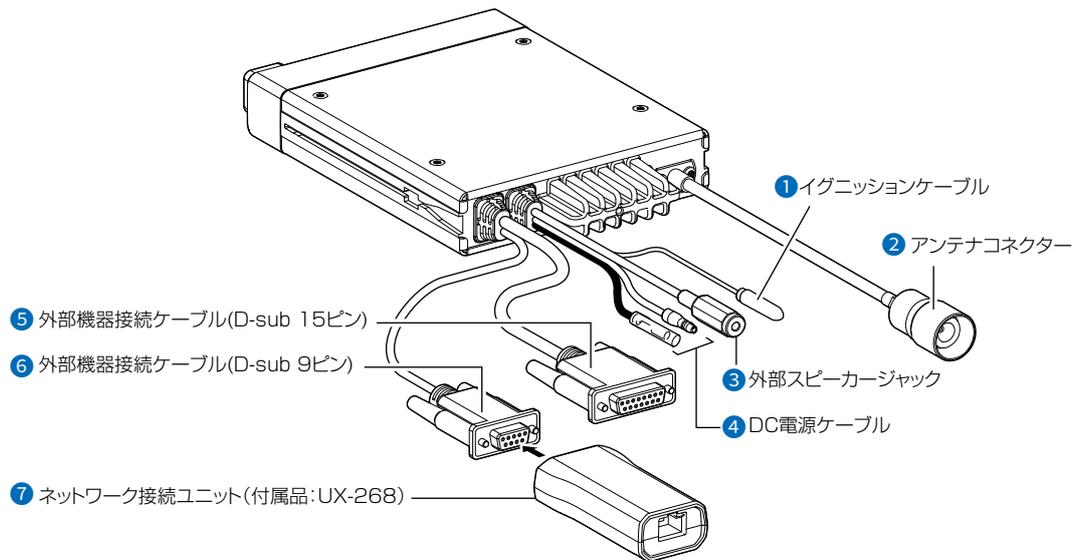
⑭ 個別番号/設定内容表示

◎コマンドマイク(別売品:HM-253)接続時
送受信機の通話チャンネル番号が表示されます。

◎コマンドマイク(別売品:HM-253)以外接続時
「リモート中」が表示されます。

1 各部の名称と機能

■ 後面部



① イグニッションケーブル(青色)

自動車のイグニッションキー(パワースイッチ)の操作と連動して、本製品の電源をON/OFFできるようにするときは、イグニッションキーをACC(アクセサリ)、またはIGN(イグニッション)の位置にすると、12V、または24Vになり、OFFの位置で0Vになる電源(イグニッションまたはACC)ラインに接続します。
※イグニッションキーの操作と連動させないときは、接続の必要はありません。

ほかの機器の端子などに接触しないように、イグニッションケーブル先端の保護キャップ(黒色)を付けた状態でご使用ください。

② アンテナコネクタ(N型：50Ω)

アンテナと接続します。

③ 外部スピーカージャック(φ3.5mm/4Ω/ステレオ)

外部スピーカー(別売品：SP-30、SP-35/L/H)、または卓上電源装置(別売品：PS-230A)のスピーカープラグと接続します。

※別売品のマイクロホン(AM-6、SM-28)を使用する場合は、外部スピーカーの接続が必要です。

④ DC電源ケーブル

DC電源ケーブル(付属品)を使用して、12V/24V系のバッテリーと接続します。

※入力電圧に応じて、12V/24Vを自動認識します。
※卓上電源装置(別売品：PS-230A)と接続することもできます。(P.9-1)

【過電圧/減電圧表示について】

供給されるDC電源電圧が低い場合は「減電圧」、高い場合は「過電圧」と表示され、「ピー、ピー、ピー」と鳴ります。

動作範囲の電圧に戻ると、通常が表示に戻り、操作できます。

「過電圧」表示が消えても、過電圧が原因で故障している場合がありますので、無線機の点検が必要です。

※DC電源電圧が低い場合、電源が切れることがあります。

⑤ 外部機器接続ケーブル(D-sub 15ピン)

将来的な機能拡張用(シリアルデータ通信など)に使用します。(P.10-2)

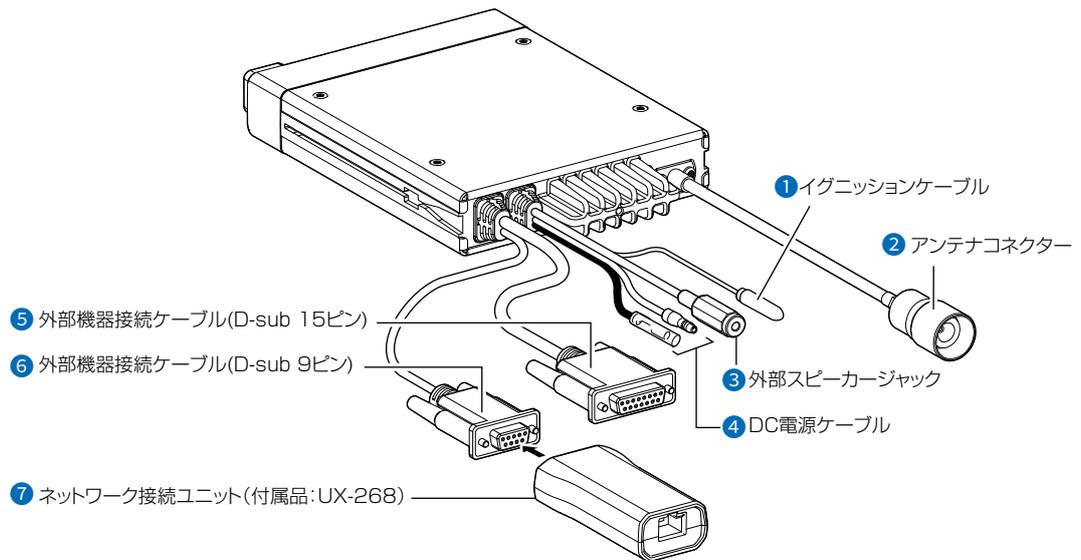
※データ通信を使用するには、お買い上げの販売店で、ネットワーク機能をOFFにする必要があります。

⑥ 外部機器接続ケーブル(D-sub 9ピン)

ネットワーク接続ユニット(付属品：UX-268)を接続したり、将来的な機能拡張用(シリアルデータ通信など)に使用したりします。(P.10-3)

1 各部の名称と機能

■ 後面部



⑦ ネットワーク接続ユニット

外部機器接続ケーブル(D-sub 9ピン)に接続します。操作機と送受信機に設定された本製品(2台)をHUBなどのネットワーク機器を経由して接続します。

※LANケーブルと接続するときは、「カチッ」と鳴るまで差し込んでください。

※故障の原因になりますので、マイクロホンは接続しないでください。

※お買い上げの販売店でIPネットワークの設定が完了するまで、既存のネットワークに接続しないでください。

※IPネットワークに接続した本製品をVE-PG4(弊社製RoIP GATEWAY)と連携させて使用する場合は、販売店へ本製品の設定をご依頼いただき、免許の範囲内で通信してください。

※接続する前に、身体の静電気を取り除いてください。また、UX-268のコネクター部分には直接手を触れないでください。

人体からの静電気は、機器を破損させる原因になることがあります。

ご注意

ネットワーク接続ユニットを交換する場合は、ネットワークの再設定が必要になりますのでお買い上げの販売店にご依頼ください。

2

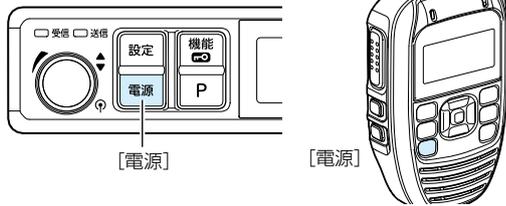
無線機を起動するには

1. 電源を入れる(操作機/送受信機)

操作機と送受信機の電源を入れます。

[電源]を長く(約2秒)押します。

- 「ピー」と鳴り、選択されている通話チャンネル番号を読み上げます。



【電源を入れてから通話できるまでの表示】

操作機側の表示



電源投入直後

自局番号表示*



動作モード表示



ネットワーク接続前の表示



ネットワーク接続成功時



送受信機側の通話チャンネルが表示される

送受信機側の表示



電源投入直後

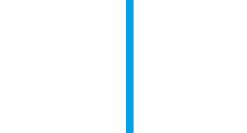
自局番号表示*



動作モード表示



通話チャンネル表示



ネットワーク接続成功時

★自局番号表示について

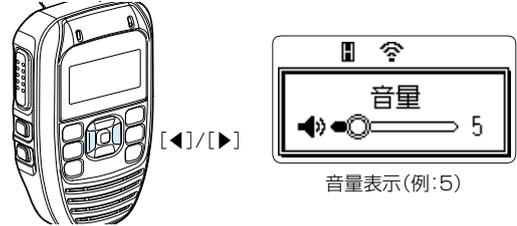
個別呼び出し機能(P.5-6)が設定されているとき、通話には、操作機側に表示された自局番号を使用します。

なお、自局番号に名称が設定されている場合は、その自局番号の代わりに、名称が表示されます。

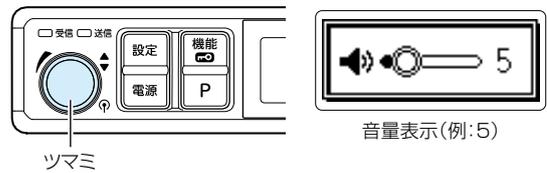
2. 音量を調整する(操作機/送受信機)

[◀]/[▶]を押します。

- 選択範囲：0(小)～32(大)



※無線機のツマミを回しても、音量を調整できません。

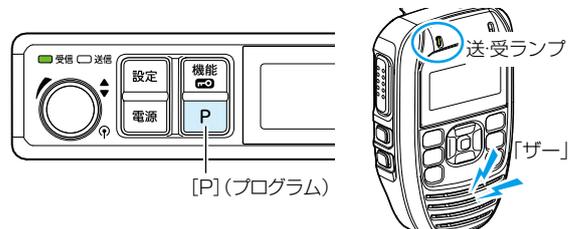


【「ザー」という音を聞きながら調整するには】

[P]を押しつづけます。

送・受ランプが緑色に点灯して、「ザー」という音が出ます。

※[P]の動作が、送信権の切り替え操作(P.4-3)などに割り当てられているときは、動作しません。



ご注意

音量が最小のときは、操作音(ブープ音)、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声は、聞こえません。

ご参考:チャンネル番号音声案内機能について

電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。

※使用しないときは、設定の変更をお買い上げの販売店にご依頼ください。

2 無線機を起動するには

■ 通話するときのアドバイス

1. マイクロホンの使いかた

◎マイクホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの
声で通話してください。

マイクホンに口を近づけすぎたり、大きな声を出し
たりすると、かえて相手に聞こえにくくなりますの
でご注意ください。

◎[PTT]を押すと、「ピッ」と鳴ります。

そのあとマイクロホンに向かって話してください。

※個別呼び出し機能が設定されているときは、「ピ
ッ」と鳴ります。(P.5-6)

2. 正しい通話方法

次の要領で通話をしてください。

用件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

【呼び出しをするとき】 **【応答をするとき】**

「相手局の呼び出し名称」: 3回以下 3回以下

「こちらは」 : 1回 1回

「自局の呼び出し名称」 : 3回以下 1回

「どうぞ」 : 1回 1回

3. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信し
にくくなる場合があります。

※通話範囲であっても、山や建物などが障害物となっ
て、通話しにくくなる場合があります。

そのときは、移動機が場所を移動してから、通話して
ください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、およ
び電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、
誤動作したりすることがありますので、無線機を
はなしてご使用ください。

4. 混信防止(キャリアセンス)機能について

無線通信による混信を防止するため、送信しようとする
通話チャンネル番号が、ほかの人によって使用されてい
るときに、[PTT]を押すと、キャリアセンス機能が動作
して、「ブツ」と鳴って送信できません。

※本製品では、送受信機側から電波が送信されるた
びに、キャリアセンス機能が動作します。

※キャリアセンス機能が動作して、送信できないとき
は、「先方話中」が操作機側に表示されます。



キャリアセンス機能が
動作したときの表示

※画面に「」(反転)が表示されている状態で、[PTT]を
押した(操作機側のアンテナから電波を送信した)と
きは、キャリアセンス機能は動作しません。

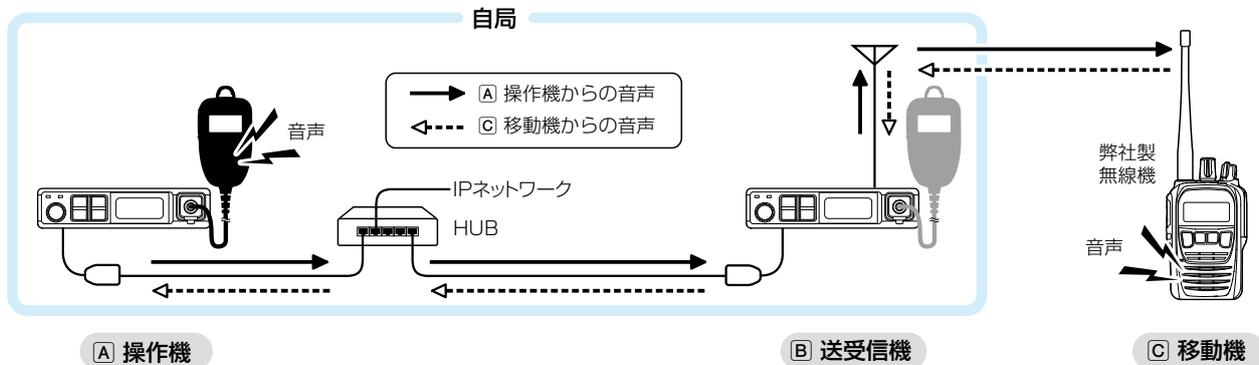
なお、「エリア拡張システム」の移動機間通信機能
(P.4-1)が設定されているときの中継動作では、操
作機側から電波を送信するたびに、キャリアセンス機
能が動作します。

■ 「遠隔制御システム」について

操作機が「遠隔制御システム」に設定されている場合は、下図の構成で、**▲**操作機と**◎**移動機が通話できます。

※この章では、通話相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの簡単な通話方法について説明しています。

※本書では、弊社製無線機IC-DU75を移動機として使用するものとします。



【▲操作機から◎移動機までの送信の流れ】

1. ▲操作機のコマンドマイク(別売品：HM-253)から、呼び出したい◎移動機の通話チャンネルを選択する
2. ▲操作機のコマンドマイクの[PTT]を押しつづける
3. ▲操作機からの音声は◎送受信機に入力されると同時に電波として送信され、◎移動機がその電波を受信する

【◎移動機から▲操作機までの送信の流れ】

1. ◎移動機から送信された電波を◎送受信機で受信する
2. ◎送受信機で受信した音声は、IPネットワークを経由して、▲操作機のコマンドマイクから聞こえる
※お買い上げの販売店で、送受信機のモニター機能(P.5-1)が設定されている場合、▲操作機と◎移動機の通話が、◎送受信機に接続されたコマンドマイクからも聞こえます。

【▲操作機はアンテナ不要】

▲操作機は、IPネットワーク経由で◎送受信機を遠隔制御するだけですので、アンテナの接続は不要です。

3 遠隔制御システムでの通話方法

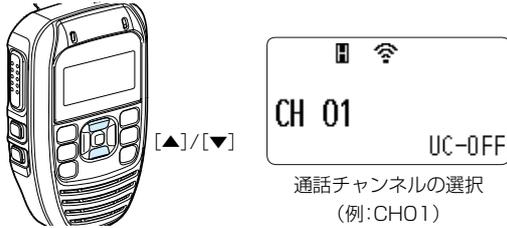
■ 移動機と通話するには

通話するときは、**A**操作機に接続されたコマンドマイク(別売品:HM-253)を使用します。

※「回線エラー」が表示され、「」が表示されないときは、無線機の設定、およびIPネットワークの接続を確認してください。(P.10-4)

1. 通話チャンネルを合わせる

A操作機の[▲]/[▼]を押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。



2. 呼び出しをする(送信する)

ご注意

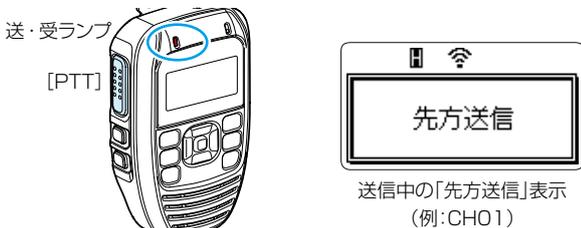
送・受ランプが緑色に点灯しているときは、音声は聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※送・受ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

A操作機の[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、送・受ランプが赤色に点灯します。

※送信直後、「先方送信」が一時的に表示されます。



3. 呼び出しを受ける(受信する)

A操作機の[PTT]をはなすと待ち受け状態になります。電波を受信中は、送・受ランプが緑色に点灯します。待ち受け状態のときは、送・受ランプが消灯しています。



※ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)の電波を受信しているときも、送・受ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】

送・受ランプが消灯し、待ち受け状態になってから、**A**操作機の[PTT]を押します。

4

エリア拡張システムでの通話方法

■「エリア拡張システム」について

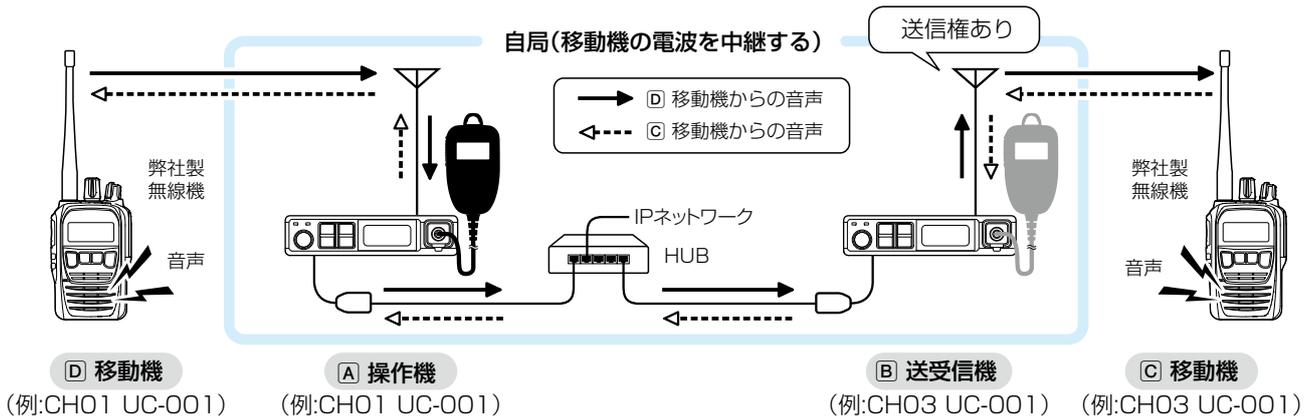
遠隔制御システムより広範囲に移動機と通話できるシステムです。

操作機が「エリア拡張システム」に設定、移動機間通信機能が操作機と送受信機に設定されている場合は、本製品に接続されているIPネットワークを経由して、④移動機と②移動機が通話できます。

※下図の構成で、④移動機と②移動機が通話できるのは、ユーザーコードが設定された通話チャンネル番号を選択したときだけです。

※①操作機の[PTT]を押すと、中継が中断され、移動機の呼び出しに応答することもできます。

※本書では、弊社製無線機IC-DU75を移動機として使用するものとします。



【④移動機から②移動機までの送信の流れ】

- ④移動機から送信された電波を②送受信機で受信する
- ②送受信機で受信した音声は、IPネットワークを経由して、①操作機のコマンドマイク(別売品：HM-253)から出力される
- ②送受信機の音声は①操作機に入力されると同時に電波として送信される
- その電波を④移動機で受信する
※このとき、①操作機の[PTT]を押すと、そのあいだは、中継が中断され、④移動機の呼び出しに応答できます。

【②移動機から④移動機までの送信の流れ】

- ②移動機から送信された電波を①操作機で受信する
- ②移動機の音声は、①操作機のコマンドマイクから出力される
- ①操作機で受信した②移動機の音声は、IPネットワークを経由して、②送受信機に入力されると同時に電波として送信される
- その電波を④移動機で受信する
※このとき、①操作機の[PTT]を押しているあいだは、中継が中断され、④移動機の呼び出しに応答できます。(送信権は、①操作機に自動で切り替わります。)

【移動機の音声を送受信機から聞くには】

お買い上げの販売店で、送受信機のモニター機能が設定されている場合、②移動機と④移動機の通話が、②送受信機に接続されたコマンドマイクからも聞こえます。(P.5-1)

【各操作手順の案内】

- ◎通話チャンネルの選択は、次ページの「移動機同士が通話するには」(P.4-2)をご覧ください。
 - ①操作機と②送受信機は、同じ通話チャンネル番号を選択できません。
 - ①操作機の通話チャンネルを変更するには、送信権★を①操作機に切り替えると選択できます。
 - ★送信権の切り替えは、あらかじめ、お買い上げの販売店で、[P]、またはコマンドマイクの[サイド1]や[サイド2]に設定されているときだけ、操作できます。本書では、送信権の切り替え操作が[P]の長押しに割り当てられているものとして説明しています。
- ◎①操作機が④移動機、または④移動機と通話する手順については、「操作機と移動機が通話するには」(P.4-3)をご覧ください。

【個別呼び出し機能使用時の移動機の設定】

個別呼び出し機能(P.5-6)が設定されている場合は、呼び出す相手局の個別番号も指定します。

②移動機から④移動機を呼び出す場合

②移動機に、①操作機のユーザーコードが設定された通話チャンネルと④移動機の個別番号を設定します。

②移動機から①操作機を呼び出す場合

②移動機に、①操作機のユーザーコードが設定された通話チャンネルと①操作機の個別番号を設定します。

④移動機から①操作機を呼び出す場合

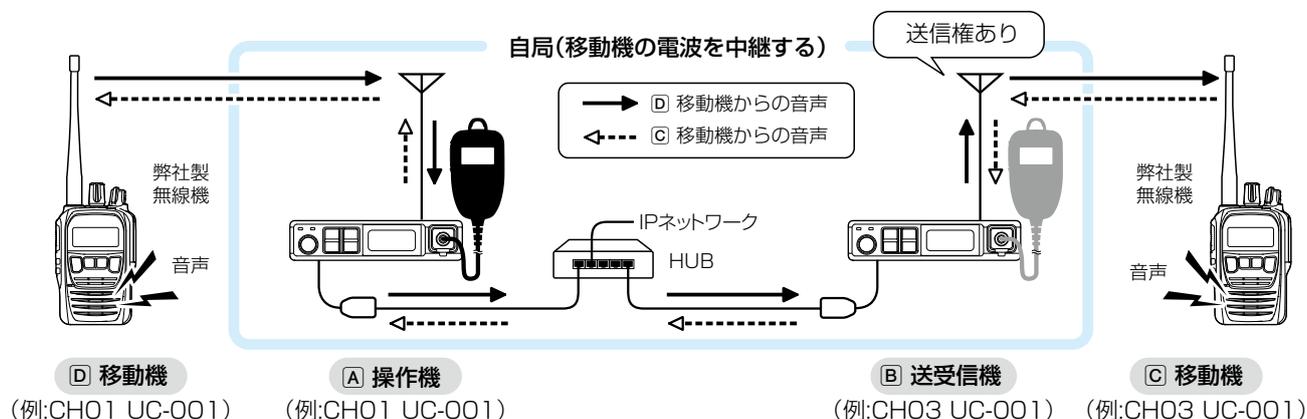
④移動機に、②送受信機のユーザーコードが設定された通話チャンネルと①操作機の個別番号を設定します。

4 エリア拡張システムでの通話方法

■ 移動機同士が通話するには

下記の1~4の手順にしたがって、**①**操作機と**②**送受信機の通話チャンネルを移動機(例:IC-DU75)に合わせておくだけで、受信した移動機の電波を本製品が中継して、**③**移動機と**④**移動機が通話できます。

※通話チャンネルの選択は、**①**操作機に接続されたコマンドマイク(別売品:HM-253)を使用します。



※「回線エラー」が表示され、「」が表示されないときは、無線機の設定、およびIPネットワークの接続を確認してください。(P.10-4)

1. 送信権表示がかどうかを確認する

送信権表示の状態を確認します。

:送信権が送受信機にあるとき

:送信権が操作機にあるとき

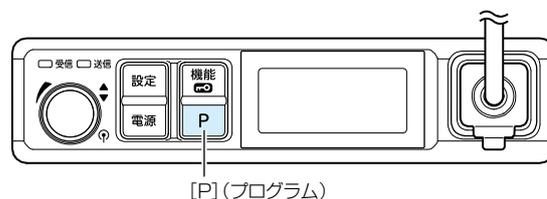
「」が表示されている場合は、**①**操作機の[P]^{*}を長く押し、送信権を**②**送受信機に切り替えます。

★本書では、送信権の切り替え操作が[P]の長押しに割り当てられているものとします。

3. 送信権を**①**操作機に切り替える

①操作機の[P]を長く押し、送信権を**①**操作機に切り替えます。

- 送信権表示がに切り替わります。



2. **②**送受信機の通話チャンネルを合わせる

①操作機の[▲]/[▼]を押して、**②**送受信機側の**④**移動機と同じユーザーコード(例:UC-001)が設定された通話チャンネル(例:CH 03)を選択します。

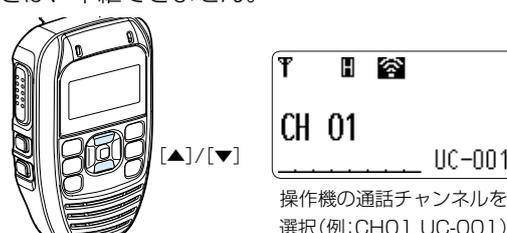
※通話チャンネルとユーザーコードが**④**移動機と異なるときは、中継できません。



4. **①**操作機の通話チャンネルを合わせる

①操作機の[▲]/[▼]を押して、**①**操作機側の**④**移動機と同じユーザーコード(例:UC-001)が設定された通話チャンネル(例:CH 01)を選択します。

※通話チャンネルとユーザーコードが**④**移動機と異なるときは、中継できません。

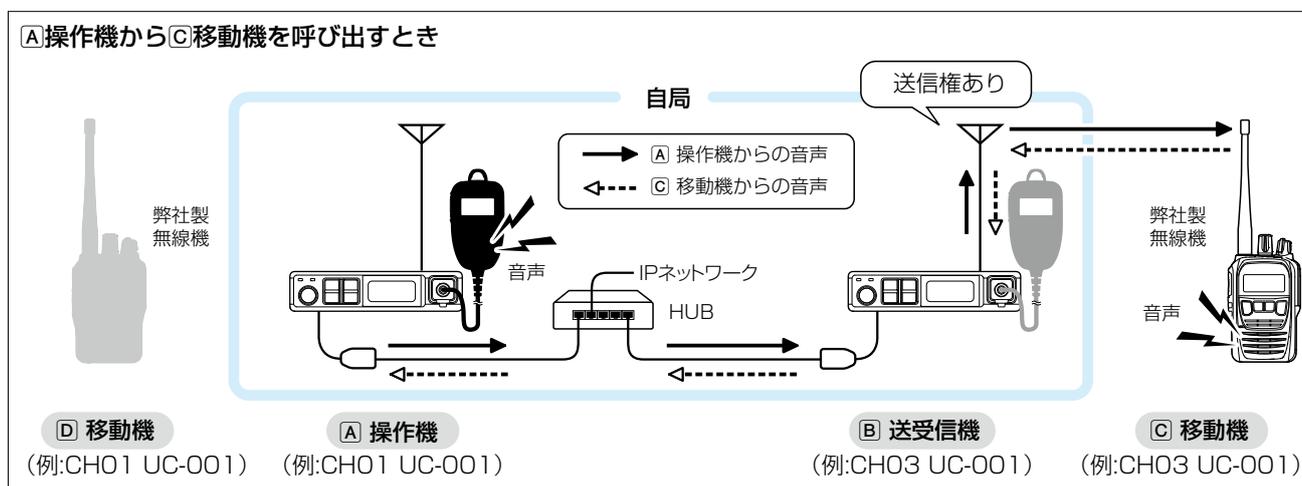


4 エリア拡張システムでの通話方法

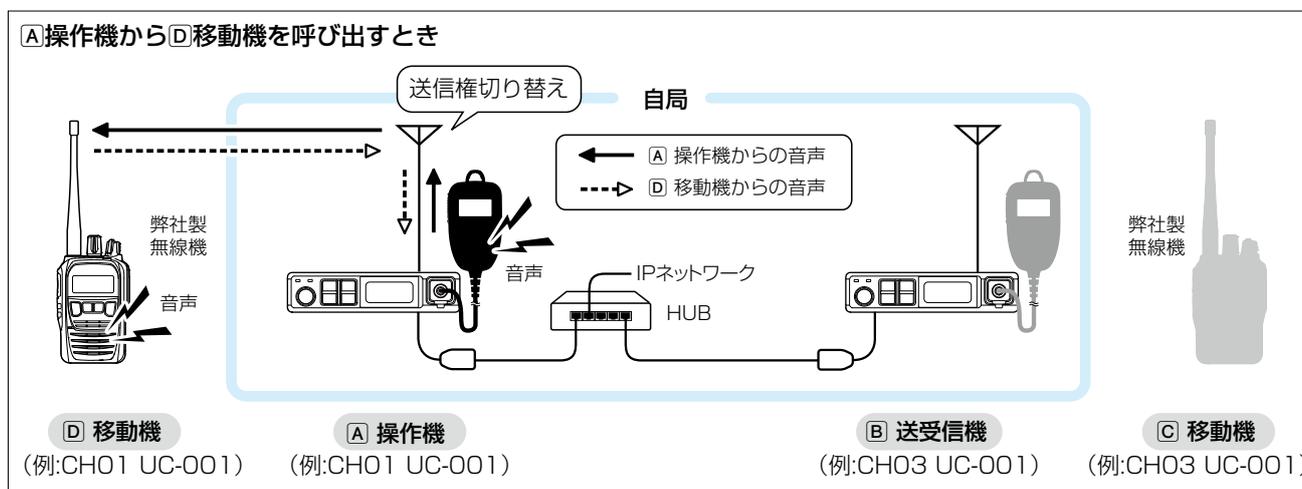
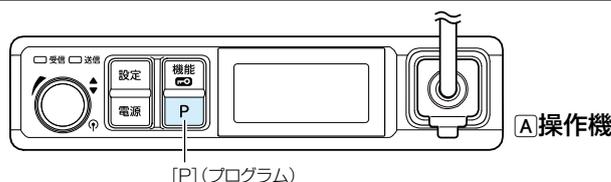
■ 操作機と移動機が通話するには

操作機が「エリア拡張システム」に設定されている場合は、1～4の手順で操作すると、本製品に接続されているIPネットワークを経由して、**A**操作機が**C**移動機、または**D**移動機と通話できます。

※**C**移動機と**D**移動機の通話(P.4-2)にも使用されるものとして、ユーザーコードが設定された通話チャンネルでの通話を例に説明しています。



送信権
切り替え操作



1. 送信権を切り替える

A操作機の[P]^{*}を長く押し、送信権を切り替えます。
(上図参照)

A操作機から**C**移動機を呼び出すとき

- 送信権表示を「」(送信権が送受信機にある状態)に切り替えます。

A操作機から**D**移動機を呼び出すとき

- 送信権表示を「」(送信権が操作機にある状態)に切り替えます。

★送信権の切り替えは、あらかじめ、お買い上げの販売店で、[P]、またはコマンドマイクの[サイド1]や[サイド2]に設定されているときだけ、操作できます。
本書では、送信権の切り替え操作が[P]の長押しに割り当てられているものとして説明しています。

4 エリア拡張システムでの通話方法

■ 操作機と移動機が通話するには

2. 通話チャンネルを合わせる

①操作機の[▲]/[▼]を押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

②操作機から③移動機を呼び出すとき

○「」(送信権が送受信機にあるとき)



④操作機から⑤移動機を呼び出すとき

○「」(送信権が操作機にあるとき)



3. 呼び出しをする(送信する)

ご注意

送・受ランプが緑色に点灯しているときは、音声が入りなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※送・受ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

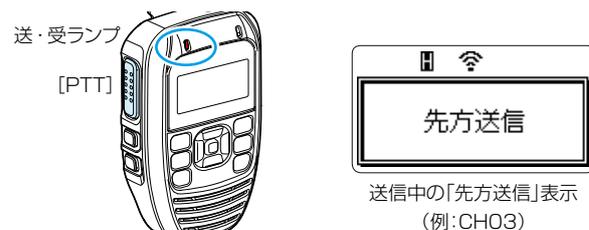
⑥操作機の[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、送・受ランプが赤色に点灯します。

⑦操作機から⑧移動機を呼び出すとき

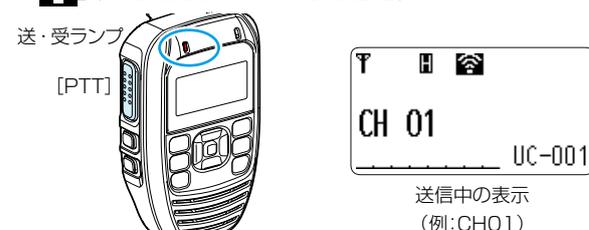
○「」(送信権が送受信機にあるとき)

※送信直後、「先方送信」が一時的に表示されます。



⑨操作機から⑩移動機を呼び出すとき

○「」(送信権が操作機にあるとき)



4 エリア拡張システムでの通話方法

■ 操作機と移動機が通話するには

4. 呼び出しを受ける(受信する)

Ⓐ操作機の[PTT]をはなすと待ち受け状態になります。
電波を受信中は、送・受ランプが緑色に点灯します。
待ち受け状態のときは、送・受ランプが消灯しています。

◎C移動機から呼び出しを受けたとき



◎D移動機から呼び出しを受けたとき

※受信中は、「先方送信」が表示されます。



※ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)の電波を受信しているときも、送・受ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】

移動機からの呼び出しを受信すると、その無線機に送信権が自動で切り替わります。

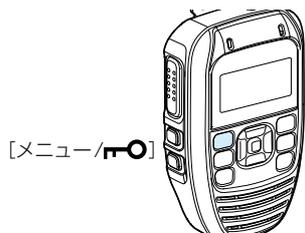
送・受ランプが消灯し、待ち受け状態になってから、Ⓐ操作機の[PTT]を押しているあいだは、呼び出しを受けた移動機に応答できます。

■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意にコマンドマイク(別売品: HM-253)のキー、または無線機(操作機/送受信機)のキーやツマミに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、[メニュー/]を長く押しします。



ロック機能設定時の表示



ロック機能解除時の表示

※ 同じ操作をすると、解除できます。

〈操作機で、ロック中にできる操作〉

- ◎ ロック機能の解除
- ◎ 送信/受信の切り替え
- ◎ 電源のON/OFF
- ◎ モニター機能のON/OFF (P.5-1)
- ◎ 緊急呼び出し機能 (P.5-13)

〈送受信機で、ロック中にできる操作〉

- ◎ ロック機能の解除
- ◎ 電源のON/OFF
- ◎ モニター機能のON/OFF (P.5-1)

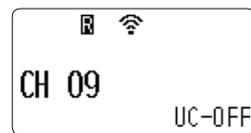
※ 操作機や送受信機の操作がロック中でも、音量調整される場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 受信専用機能

移動機への呼び出しや応答を禁止したいときなど、無線機の通話チャンネルを受信専用で使用できます。

※ []表示された通話チャンネルでは、呼び出しや応答ができません。

※ 受信専用機能をご使用になるには、設定が必要です。設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



受信専用設定時の表示(例: CH09)

■ モニター機能

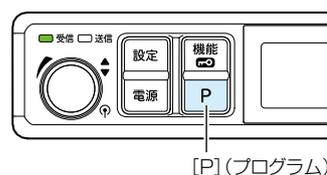
モニター機能は、次のような場合に使用します。

- ◎ 信号を受信していない状態で、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき
- ◎ ユーザーコード、個別番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くととき
 - ※ 他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

【操作のしかた】

操作機、または送受信機の[P]を押しているあいだ、モニター機能が動作します。

※ [P]の動作が、モニター機能以外の操作に割り当てられているときは、動作しません。



[P] (プログラム)



■ 送受信機で通話内容を聞くには

あらかじめ、お買い上げの販売店で、送受信機でのモニター機能が設定されている場合、送受信機に接続したマイクロホン(別売品: HM-254、HM-253)、または外部スピーカー(別売品: SP-30、SP-35シリーズ)で、操作機と移動機の通話内容が聞けます。

※ 設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

5 そのほかの機能について

■ 内線通話機能

[P]に内線通話機能が割り当てられているとき、IPネットワークに接続された操作機と送受信機のあいだで内線通話できる機能です。

※ [P]の割り当ては、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※内線通話機能をお使いになるときは、必ずコマンドマイク(別売品:HM-253)、または防水スピーカマイク(別売品:HM-254)を無線機に接続してください。

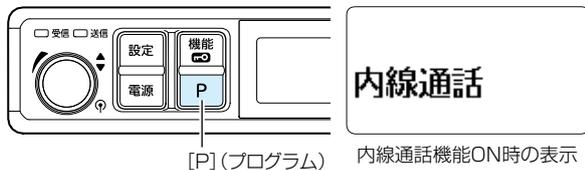
※内線通話中は、モニター機能(P.5-1)を使用できません。

※内線通話中は、遠隔制御システム、またはエリア拡張システムによる通話はできません。

【操作のしかた】

本書では、[P]を短く押したとき、内線通話機能が動作するように割り当てられているものとして説明します。

1. 内線通話機能を設定している無線機(例：操作機)の[P]を短く押します。
 - 操作機と送受信機に「内線」、コマンドマイクに「内線通話」と表示されます。
※内線通話機能が設定されていない無線機からは、操作できません。



2. 操作機、または送受信機の[PTT]を押しながら、マイクに向かって話しかけます。
 - 送・受ランプが赤色に点灯します。
※話し終わったら、[PTT]をはなします。



【応答するときは】

送・受ランプが消灯すると、内線通話の相手に応答できます。

※送・受ランプが緑色に点灯しているあいだは、内線通話の相手が[PTT]を押しつづけているため、応答できません。

3. もう一度、[P]を短く押すと、内線通話機能を解除します。

■ ポケットビープ機能

ユーザーコードや個別呼び出し機能(P.5-6)が設定されている場合、使用できる機能です。

呼び出しを受けたとき、「」表示が点滅に変わります。同時に、ビープ音、またはメロディー(P.5-3)で通知します。

※ポケットビープ機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



- ◎ユーザーコードと個別呼び出し機能を併用している場合も、基地局呼び出し、または個別呼び出しを受けると「」表示が点滅に変わります。
- ◎呼び出しを受けたとき、ビープ音、またはメロディーを停止するときは、[電源]や無線機本体のツマミ以外の操作で停止できます。
- ◎ポケットビープ機能が設定されていない状態で、基地局呼び出し、または個別呼び出しを受けたときは、ビープ音、またはメロディーは鳴らず、呼び出した相手の個別番号と、「」表示の点滅だけになります。

5 そのほかの機能について

■ 呼び出しメロディー機能

個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、Pベル機能、ポケットビープ機能、呼出着信音機能★の呼び出し音をメロディー(9種類)に設定できます。

※呼び出しメロディー機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※呼び出しを受けたとき、メロディーを停止するときは、操作機の[電源]や操作機本体のつまみ以外の操作で停止できます。

★呼出着信音機能とは、個別番号(最大10局)、グループ番号(最大10局)で、異なる呼び出し音が設定できる機能です。

■ 着信表示

ユーザーコードや個別呼び出しを受けたとき、操作機側の送・受ランプが橙色に点滅します。

[戻る]を押すと、点滅が停止します。

※ご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 秘話機能

秘話機能を使用すると、ほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。

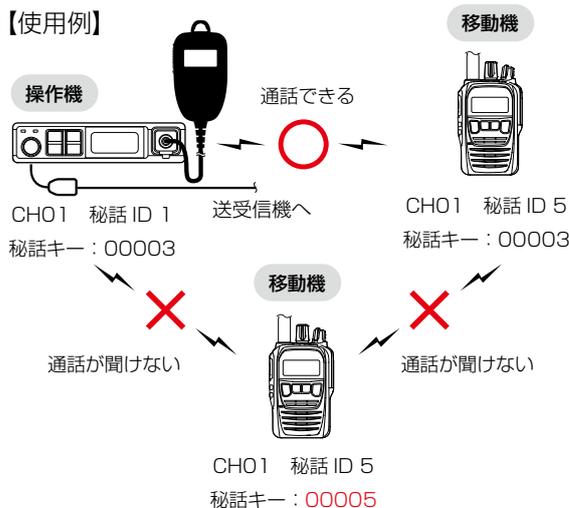
通話チャンネルと秘話IDに設定された秘話キーが一致した移動機の相手と通話できます。

また、秘密性を強化した拡張秘話機能もご用意しています。

※秘話機能、拡張秘話機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【使用例】



移動機の図は、IC-DU75(弊社製無線機)を例にしています。

◎秘話機能が設定されているとき、操作機は、図の表示になります。



秘話機能設定時の表示

◎秘話キーが同じ相手であれば、秘話IDが異なる場合でも通話できます。

◎自分と同じ秘話キーの相手局、または秘話機能を使用しない他局が送信した信号を受信すれば、音声がかかります。

◎ユーザーコードや個別呼び出し機能による通話時も併用できます。

◎通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なる秘話キーを使用して通話している)の電波を受信しているときも、送・受ランプが緑色に点灯します。

◎他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

◎機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

5 そのほかの機能について

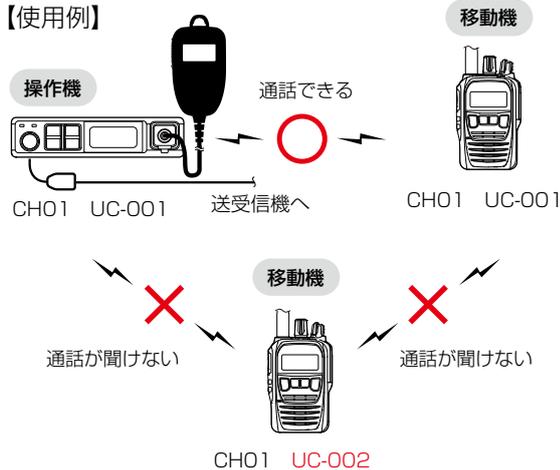
■ ユーザーコードによるグループ通話機能

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。

通話チャンネル(P.3-2、P.4-2)とユーザーコードが一致したすべての移動機と通話できます。

※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。

【使用例】



移動機の図は、IC-DU75(弊社製無線機)を例にしています。

【ユーザーコードの設定について】

◎使用するユーザーコード(000~511)は、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

グループ通話をするときは、選択した通話チャンネルに設定されたユーザーコードが通話相手と同じユーザーコードであることを確認してください。

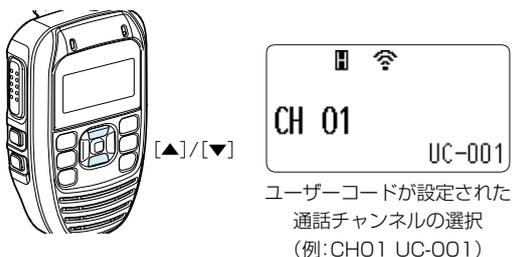
◎コマンドマイク(別売品:HM-253)を使用して、ユーザーコードが変更できるように設定されている場合の操作については、本書をご覧ください。(P.5-5)

◇グループ通話のしかた

1. 通話チャンネルを合わせる

操作機の[▲]/[▼]を押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



2. 呼び出しをする(送信する)

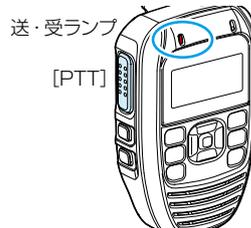
ご注意

送・受ランプが緑色に点灯しているときは、音声がかえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※送・受ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

操作機の[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、送・受ランプが赤色に点灯します。



送信中の表示
(例:CH01 UC-001)

3. 呼び出しを受ける(受信する)

操作機の[PTT]をはなすと待ち受け状態になります。

電波を受信中は、送・受ランプが緑色に点灯します。

待ち受け状態のときは、送・受ランプが消灯しています。



受信中の表示
(例:CH01 UC-001)

※音声がかえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、送・受ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】

送・受ランプが消灯し、待ち受け状態になってから、操作機の[PTT]を押します。

5 そのほかの機能について

■ ユーザーコードによるグループ通話機能

◇ユーザーコードを変更するには

ユーザーコードを001から002に変更することを例に、操作機での操作手順を説明します。

※ユーザーコードが変更できるのは、お買い上げの販売店で、あらかじめ、設定されている場合だけです。

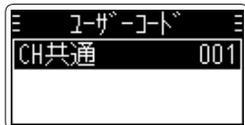
1. [▲]/[▼]を押して、通話チャンネルを選択します。
※通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを設定できるように設定されている場合、ここで選択した通話チャンネルで使用するユーザーコードだけが変更できます。

2. [メニュー/☞]を短く押します。
 - メニュー画面が表示されます。



3. [決定]を押します。
 - ユーザーコードの設定状態が表示されます。

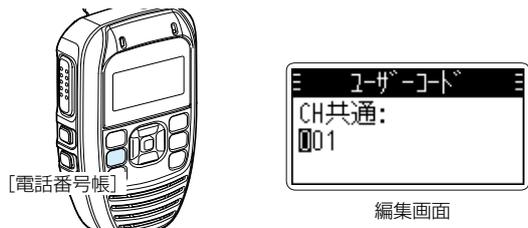
◎ユーザーコード設定:通話チャンネル共通



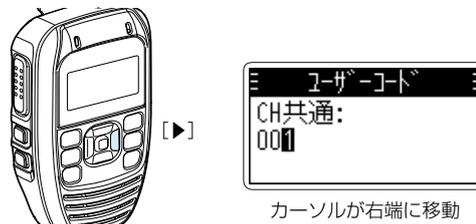
ご参考

通話チャンネルごとのユーザーコード設定への変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

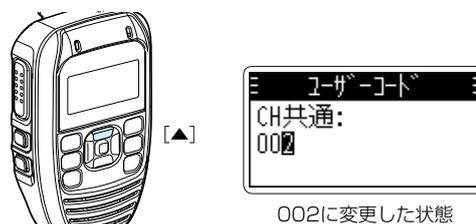
4. [個別番号帳]を押します。
 - ユーザーコードの数字が白黒反転表示になり、編集できる状態になります。



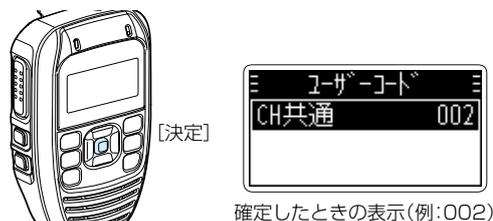
5. [▶]を2回押します。
 - 編集できる桁(白黒反転表示)が右端に移動します。



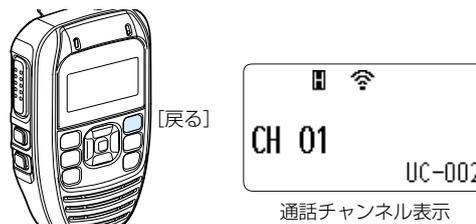
6. [▲]を押します。
 - ユーザーコードが変わります。



7. [決定]を押します。
 - ユーザーコードの変更が確定されます。



8. [戻る]を2回押します。
 - 通話チャンネル表示に戻ります。



5 そのほかの機能について

■ 個別呼び出し機能

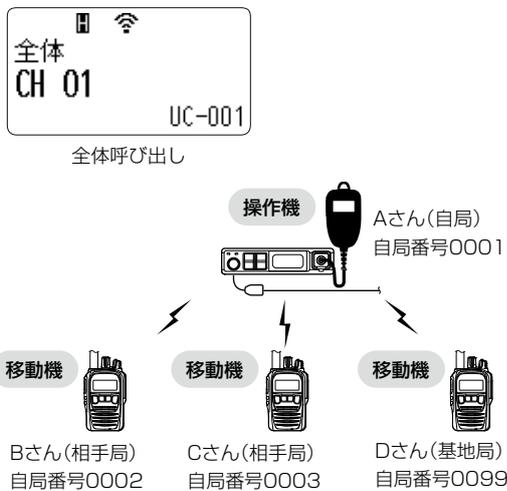
通話チャンネルとユーザーコードを一致させた状態で、さらに選択した相手を呼び出せる個別呼び出し機能は、次の4種類の呼び出しかたがあります。

- ◎全体呼び出し ◎基地局呼び出し
- ◎個別呼び出し ◎グループ呼び出し

※ 個別呼び出し機能を使用するには、お買い上げの販売店での設定が必要です。

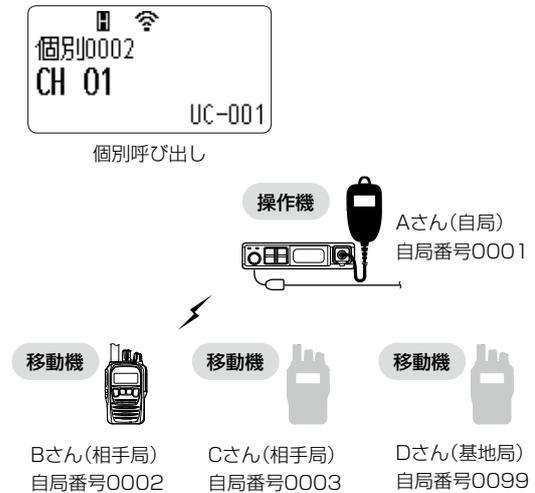
◎全体呼び出し

通話チャンネルとユーザーコードが同じ相手局(例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。



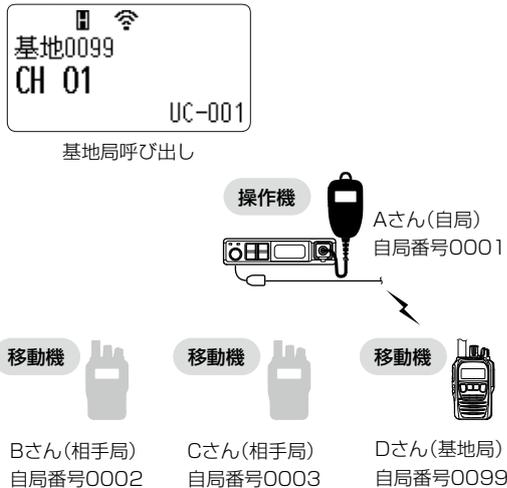
◎個別呼び出し

通話チャンネルとユーザーコードが同じで、呼び出す相手局(例:Bさん)の自局番号(例:0002)を指定して呼び出します。



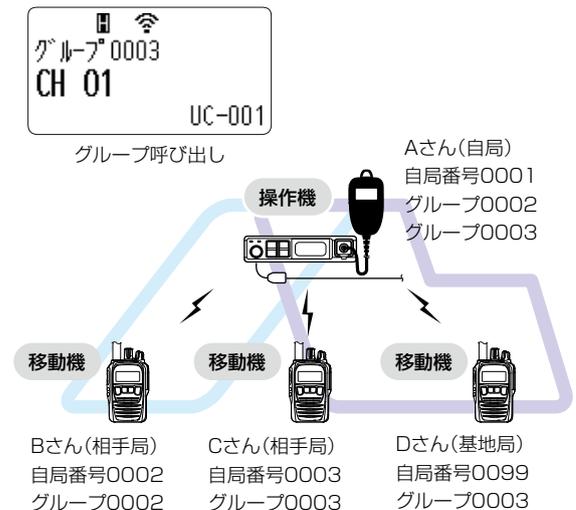
◎基地局呼び出し

通話チャンネルとユーザーコードが同じで、呼び出す基地局(例:Dさん)の自局番号(例:0099)を指定して呼び出します。



◎グループ呼び出し

通話チャンネルとユーザーコードが同じで、メンバー指定*されたグループ番号(例:グループ 0003)に所属するすべての相手(例:Cさん/Dさん)を呼び出します。



★ 同じグループ番号で、そのグループ番号にメンバー指定を設定している相手側だけが、送信局からの音声聞けます。
 ※ 相手側でもメンバー指定の設定が必要です。
 相手側でメンバー指定されていないグループ番号に呼び出しをしても、着信しません。

※ 移動機の図は、IC-DU75(弊社製無線機)を例にしています。

5 そのほかの機能について

■ 個別呼び出し機能

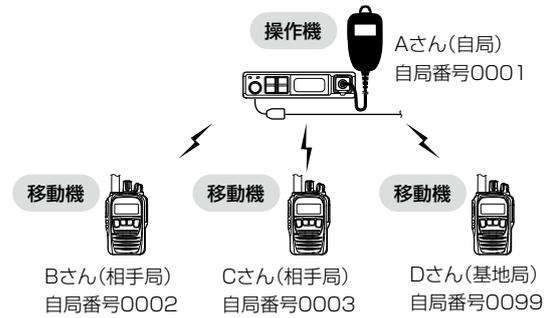
◇通話のしかた

個別番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※お買い上げの販売店で個別呼び出し機能が設定されているものとして説明します。

【Aさんから呼び出す場合の使用例】

通話チャンネル番号と、呼び出す相手(全体/基地/個別/グループ番号)を選択してから送信します。

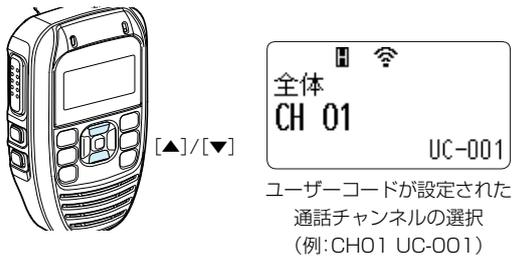


※移動機の図は、IC-DU75(弊社製無線機)を例にしています。

1. 通話チャンネルを合わせる

操作機の[▲]/[▼]を押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



2. 全体/基地/個別/グループ番号の選択

1. [電話番号帳]を繰り返し押して呼び出し先を選択します。
 - 押すごとに「全体」→「基地局」→「個別」→「グループ」と切り替わります。
2. 「個別」、「グループ」選択時は、[▲]/[▼]を押して個別番号(相手の自局番号)、またはグループ番号に合わせます。



5 そのほかの機能について

■ 個別呼び出し機能

◇通話のしかた

3. 呼び出しをする(送信する)

ご注意

送・受ランプが緑色に点灯しているときは、音声がかえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※呼び出しをするときは、送・受ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

操作機の[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、送・受ランプが赤色に点灯します。

※送信直後、「先方送信」が一時的に表示されます。



個別呼び出し機能で送信中の表示例

ご参考:相手局が通話圏内かどうかを確認するには
基地局、または個別番号を選択したあと、[PTT]を短く押します。

- 通話圏内にいる場合、「ピッ」と鳴り、送・受ランプが緑色に1回点滅します。

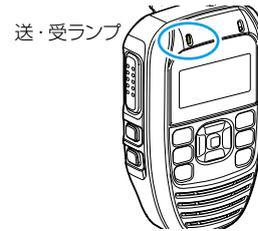
通話圏外など、相手に電波が届かない状態が5秒つづくと、基地局、または個別番号を選択したときの表示に戻ります。

4. 呼び出しを受ける(受信する)

操作機の[PTT]をはなすと待ち受け状態になります。

電波を受信中は、送・受ランプが緑色に点灯します。

待ち受け状態のときは、送・受ランプが消灯しています。



※音声がかえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、送・受ランプが緑色に点灯します。



個別呼び出し機能で受信中の表示例
(相手の個別番号が表示される)

【応答するときは】

送・受ランプが消灯し、待ち受け状態になってから、操作機の[PTT]を押します。

5 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

個別呼び出し機能で呼び出しをするとき、あらかじめ設定されたショートメッセージや音声データを送信できます。

※ショートメッセージや音声データを送信するには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※ショートメッセージの受信だけに使用する場合は、操作機に個別呼び出し機能(P.5-6)が設定されていれば、受信できます。

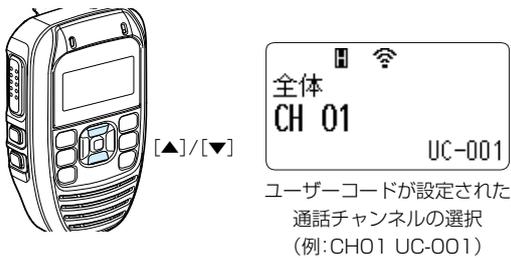
【ショートメッセージの送りかた】

※受信したショートメッセージの確認方法は、「5.受信したショートメッセージの確認」で説明しています。(P.5-10)

1. 通話チャンネルを合わせる

操作機の[▲]/[▼]を押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



2. 全体/基地/個別/グループ番号の選択

1. [電話番号帳]を繰り返し押して呼び出し先を選択します。

- 押すごとに「全体」→「基地局」→「個別」→「グループ」と切り替わります。

2. 「個別」、「グループ」選択時は、[▲]/[▼]を押して個別番号(相手の自局番号)、またはグループ番号に合わせます。

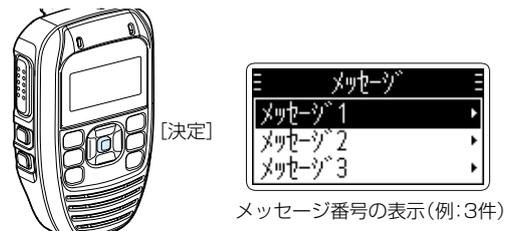


3. ショートメッセージの選択

1. 操作機の[メニュー/☰]を短く押します。
• メニュー画面が表示されます。



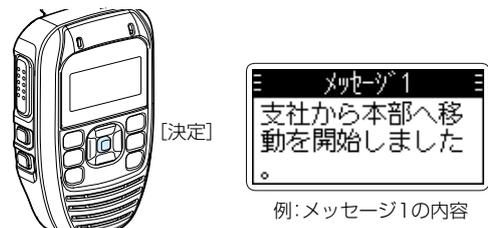
2. 操作機の[決定]を押します。
• 選択できるメッセージ番号が表示されます。



3. 操作機の[▲]/[▼]を押して、送信するメッセージを選択します。

4. 操作機の[決定]を押します。

※登録されたメッセージの全文を確認するときは、[▲]/[▼]を押します。



5 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

【ショートメッセージの送りかた】

4. ショートメッセージを送る

ご注意

送・受ランプが緑色に点灯しているときは、音声聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※呼び出しをするときは、送・受ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

メッセージの内容が表示された状態で、操作機の[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

※送信直後、「先方送信」が一時的に表示されます。

- [PTT]を押しているあいだは、送・受ランプが赤色に点灯します。
- 同時にメッセージが通話相手に送信されます。



【メッセージを送りなおすには】

「3. ショートメッセージの選択」に戻って、メッセージを選択してから、呼び出しをしてください。

5. 受信したショートメッセージの確認

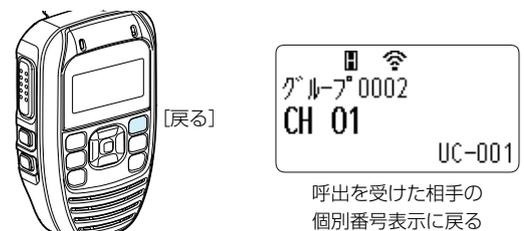
1. ショートメッセージ付きの個別呼び出しを受信すると、メッセージの先頭部分が操作機に表示されます。



2. 操作機の[◀]/[▶]を押すと、メッセージの内容を確認できます。



3. 操作機の[戻る]を押します。
 - 呼び出しを受けた相手の個別番号表示に戻ります。
 - ※[戻る]を押すまで、応答できません。



4. 操作機の[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に応答します。
 - [PTT]を押しているあいだは、送・受ランプが赤色に点灯します。

5 そのほかの機能について

■ 発着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを送受信したとき、個別番号(相手の自局番号)やグループ番号、ショートメッセージや相手の位置情報が記憶されます。

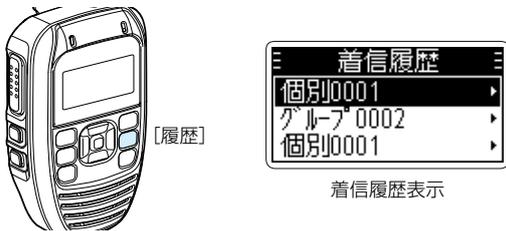
記憶された個別番号は、呼び出しに利用できます。

※発着信履歴機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【発着信履歴を使用して、呼び出しをするには】

1. 操作機の[履歴]を繰り返し押しして、「着信履歴」、または「発信履歴」を選択します。
※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。



2. 発信履歴、または着信履歴が2件以上の場合は、操作機の[▲]/[▼]を押しして選択します。
※1から順に最新の履歴として記憶されています。



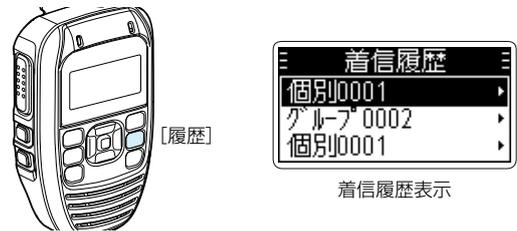
3. 呼び出す相手の履歴を選択した状態で、操作機の[PTT]を押しながら、相手に呼びかけます。
・送・受ランプが赤色に点灯します。

【発着信履歴件数と履歴の消去について】

- ◎発信履歴、着信履歴を各10件まで記憶できます。
10件を超えると、古い履歴から削除されます。
- ◎全体呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。
- ◎発信履歴の消去は、設定モードからできます。
(P.8-2)

【発着信履歴からショートメッセージを確認するには】

1. 操作機の[履歴]を繰り返し押しして、「着信履歴」、または「発信履歴」を選択します。
※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。
※履歴が2件以上ある場合は、操作機の[▲]/[▼]を押しして選択します。



2. 操作機の[決定]を押します。
 - ・ショートメッセージが表示されます。※操作機の[PTT]を押すと呼び出せます。
※履歴に登録されたショートメッセージは、送れません。



【発着信履歴の内容や件数に異常があるときは】

設定モードの「発着信履歴消去」項目から履歴を消去してください。(P.8-2)

それでも改善しない場合は、お買い上げの販売店にユーザーリセットをご依頼ください。

5 そのほかの機能について

■ 発着信履歴機能

【着信履歴からGPS情報を確認するには】

コマンドマイク(別売品:HM-253)使用時、着信履歴から受信相手の位置情報や距離と方位を確認できます。

※自局の位置情報が設定されている場合の説明です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

1. 操作機の[履歴]を繰り返し短く押して、「着信履歴」を選択します。

※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。

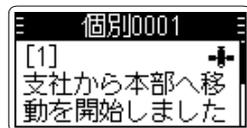
※着信履歴が2件以上ある場合は、[▲]/[▼]を押して選択します。



着信履歴表示を選択
(例: 個別0001)

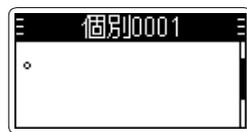
2. 操作機の[決定]を押します。

※ショートメッセージと併せて受信したときの履歴では、その内容も表示されます。



受信したショートメッセージの
着信履歴(表示例)

3. GPS情報が表示されるまで、[▼]を繰り返し押します。



相手との距離と方位の
表示例



相手の緯度と経度の表示例

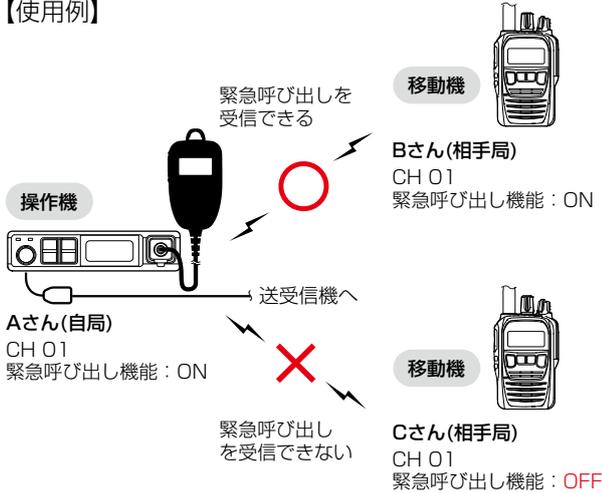
5 そのほかの機能について

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※ 緊急呼び出し機能をご使用になるには、設定が必要です。
設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【使用例】



移動機の図は、IC-DU75(弊社製無線機)を例にしています。

⚠警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。
適切な音量になっていることを確認してください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

緊急呼び出し機能は、送信側と受信側の無線機に設定されているとき、使用できる機能です。

送信側と受信側の両方に設定されていないときは、緊急呼び出しの送信や受信、応答ができません。

※ 緊急呼び出しをする無線機には、下記どちらかのマイクロホンを接続する必要があります。

◎ コマンドマイク(別売品:HM-253)

◎ 防水スピーカーマイクロホン(別売品:HM-254)

※ 個別呼び出し機能が設定されていない無線機から、個別呼び出し機能が設定されている無線機へ緊急呼び出しはできません。

緊急呼び出し機能を使用するときは、送信側と受信側の両方に個別呼び出し機能を設定してください。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

◎ 音量が最小に設定されている場合

◎ 警告音を鳴らさない設定がされている場合

◎ 電波状況の悪化により電波が届かない場合

【緊急呼び出しのしかた】

下記の操作をすると、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しします。

※ 緊急呼び出しに使用する通話チャンネルが、あらかじめ指定されていない場合は、緊急呼び出しの前に、緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択してください。

1. 「緊急」と表示されるまで、操作機に接続されたコマンドマイクの[緊急呼び出し]を長く(5秒以上)押します。
 - 「緊急」表示の点滅と同時に、警告音が「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに送・受ランプが赤色に点灯します。



2. その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。
 - 応答があると、「呼出」表示が「通話」表示に変わり、送・受ランプが緑色に点灯します。個別呼び出し機能使用時は、応答した相手の個別番号も併せて表示されます。
 - ※ 応答がない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。
3. 通話をつづけます。
 - 何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。

【緊急呼び出しを受けたときは】

1. 警告音が「ピピピ…」と鳴って、送・受ランプが赤色に点滅します。
 - 「緊急」と「相手局番号」が表示されます。



2. [PTT]を押して、応答します。
 - 応答すると、「着信」表示が「通話」表示に変わり、警告音が停止します。
 - ※ 応答しない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。
3. 通話をつづけます。
 - 何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。

5 そのほかの機能について

■ GPS機能

自局の位置情報(緯度/経度)を表示したり、相手局に自局の位置情報を送信したりできる機能です。

相手局の位置情報を受信したときは、相手局の方向と距離を表示できます。

※GPS機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

なお、送受信機側に設定しても、測位されません。

また、移動局(IC-DU7505など)についても、GPS機能の設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※GPSユニット(別売品:UX-267)を無線機に接続すると、移動場所に応じた自局位置情報の表示や送信、時刻表示などができます。

また、お買い上げの販売店で自局位置情報が設定されている場合は、GPSユニットを接続しなくても位置情報の表示や送信はできます。

※「」(GPS)表示が点滅から点灯になると、受信(測位)完了です。

点滅している状態では、位置情報の表示や送信、発着信履歴使用時の時刻表示ができません。

※本製品が設置されている場所や建物の周辺環境によって、GPS衛星からの信号を測位できない場合があります。

※位置管理システムなどのマッピングには対応していません。

※本書では、ネットワーク機能OFF時に、GPSユニット(別売品:UX-267)を接続して、コマンドマイクを使用するときの操作を説明しています。

GPSユニット(別売品:UX-267)接続時のご注意

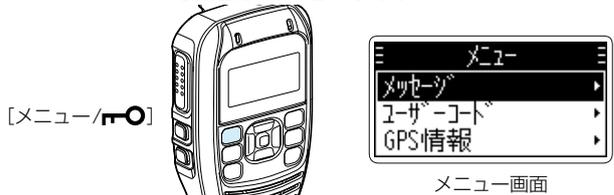
GPSユニット(別売品:UX-267)を接続する前に、ネットワーク機能をOFFにしてください。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

ネットワーク機能がONに設定されたままで、GPSユニットを接続すると、供給する電圧が異なるため、GPSユニットが故障する原因となります。

【自局(操作機)の位置情報を確認するには】

1. 「」(GPS)表示が点灯(測位が完了)していることを確認します。
2. [メニュー/ ]を短く押します。
 - 「メニュー」画面が表示されます。



3. [▲]/[▼]を押して、GPS情報を選択します。
4. [決定]を押します。
 - 測位日時と追従衛星数(表示例 SAT:12)が表示されます。



5. [▼]を押すと、緯度と経度が表示されます。
6. 待ち受けの表示に戻すときは、[戻る]を2回押します。

【移動局から位置情報を受信したときの表示】

GPS機能が設定されているとき、移動局(IC-DU7505)の位置情報を受信すると、自局から移動局までの距離と自局から見た移動局の方位が表示されます。



※発着信履歴機能が設定されているときは、着信履歴から、移動局の位置情報を確認できます。(P.5-11)

【自局(操作機)の位置情報を送信するには】

「」(GPS)表示が点灯している状態で、[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、コマンドマイクの送・受ランプが赤色に点灯します。同時に、自局情報が通話相手に送信されます。

送信時のご注意

[PTT]を押すと、位置情報の送出後に音声を送信されます。

※送信モニタービープ機能(P.5-15)が設定されている場合、「ププッ」と送信モニターが鳴ってから、呼びかけてください。

5 そのほかの機能について

■ 送信出力の切り替え機能

無線機の送信出力を切り替えできる機能です。

※遠隔操作システムの場合、操作機で変更すると、送受信機にも反映されます。

※エリア拡張システムで、送信権を操作機に切り替えたときは、送受信機とは異なる送信出力に切り替えできません。

※送信出力の切り替え機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、[サイド1]を短く押します。

※短く押すごとに、ハイパワー(5W)とローパワー(1W)が切り替わります。



■ 設定が必要な機能について

以下は、お買い上げの販売店にて設定を変更することで、お使いいただける機能の一覧です。

設定変更、および使用方法については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

- Pベル機能
- ポケットビープ機能
- 送信モニタービープ機能
- 終話信号受信ビープ機能
- 秘話機能
- 拡張秘話機能
- 送信出力切り替え機能
- チャンネル番号音声案内機能
- ノイズキャンセル機能
- イコライザー機能
- VOX機能
- 個別呼び出し機能(P.5-6)
- 終話後表示機能
- 発信履歴消去機能
- キーロック時の音量操作機能
- オートキーロック機能
- スキャン機能*
- サブチャンネルPTT機能*(P.7-1)
- ワンタッチアンサー機能
- 一時音量切り替え機能
- 録音再生機能*
- 自動チャンネル切り替え機能*
- スピーカー出力機能
- Sメーター表示機能
- RFアッテネーター機能
- バックライト機能
- GPS機能(P.5-14)
- Bluetooth機能(P.6-1)
- 緊急呼び出し機能(P.5-13)
- ショートメッセージ機能(P.5-9)

★ネットワーク機能とは併用できません。

◎本製品のBluetooth機能を有効にすると、Bluetooth対応機器と接続できます。

※この機能を使用する場合は、設定モードでの設定が必要です。(P.8-1)

※2025年1月現在、動作確認済みの弊社製Bluetooth機器は、VS-3(別売品)です。

本製品とVS-3をBluetoothで接続すると、VS-3から送受信できます。

◎Bluetoothの通信範囲は、約10m(目安)です。

◎本製品に登録できるBluetooth機器は2台です。

Bluetoothの通信においては、Bluetooth機器と本製品の距離をできるだけ近づけ、障害物がない状態にしてください。

電子レンジや無線LAN、ほかのBluetooth機器による電波干渉がある場合は、それらの位置を変更するか、必要に応じて一時的に使用を中止してください。

Bluetooth部の仕様

◎適応規格 : Bluetooth Ver. 5.2準拠

◎送信出力 : Class 1

◎対応プロファイル : HFP (Ver.1.8)

ペアリング/接続のしかた

ペアリング(接続の認証)とは、Bluetooth機器をお互いに登録し、接続を許可するためのものです。

一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。

本体側の電源をONにするとBluetooth機器と接続され、OFFにすると切断されます。

※本書では、VS-3を例に説明しています。

ご注意

◎本製品と接続する機器は、Bluetooth SIGの定めるBluetooth標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。

また、Bluetooth標準規格に適合していても、機器の仕様や設定により、本製品と接続できないことがあります。

◎複数のBluetooth機器がある場所では、ペアリングしたいBluetooth機器が検出されないことがあります。このような場合は、必要なBluetooth機器だけになるように、使用しないBluetooth機器の使用を停止、またはほかのBluetooth機器からはなれるなどしてください。

◎電源を切るなどして、Bluetooth接続を切断した場合は、無線機本体側のスピーカーから音が出るように切り替わります。無線機本体側の音量の上げすぎにご注意ください。

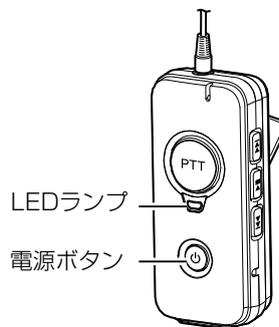
1. VS-3をペアリングモードにする

1. 電源OFF時、LEDランプが赤/青交互に点滅するまで、VS-3の電源ボタンを長く(約6秒)押しします。
2. 数秒後、「ピパ」*と鳴って、LEDランプが赤/青交互に点滅するのを確認してから、ボタンから手をはなします。

※はじめてVS-3をご使用になる場合やVS-3のペアリングリストを初期化したあとは、電源を入れるだけでペアリングモードになります。

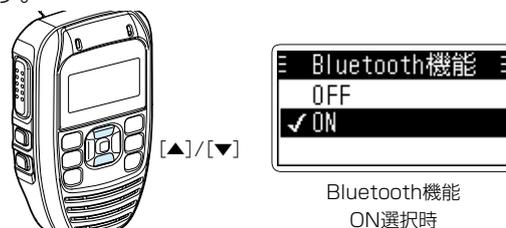
※ペアリングする機器がない状態が5分つづくと、ペアリングモードが解除され、さらに5分経過すると、電源が切れます。

★VS-3に接続しているイヤホンから音が鳴ります。



2. Bluetooth機能をONにする

1. 本製品の電源を切った状態で、[P]を押しながら、[電源]を押しつづけます。
2. 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
 - 設定項目が表示されます。
 ※設定モードを解除するまで通話できません。
3. [▲]/[▼]を押して、「Bluetooth」を選択し、[決定]を2回押します。
4. [▲]/[▼]を押して、「ON」を選択し、[決定]を押します。



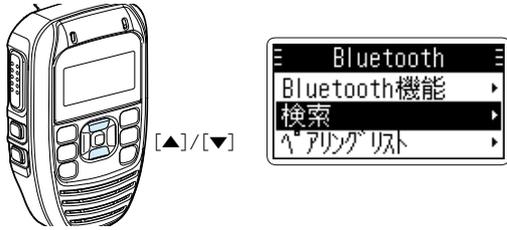
5. 設定モードのまま、次の「3.本製品からVS-3をペアリングする」を操作します。

6 Bluetooth機能

■ ペアリング/接続のしかた

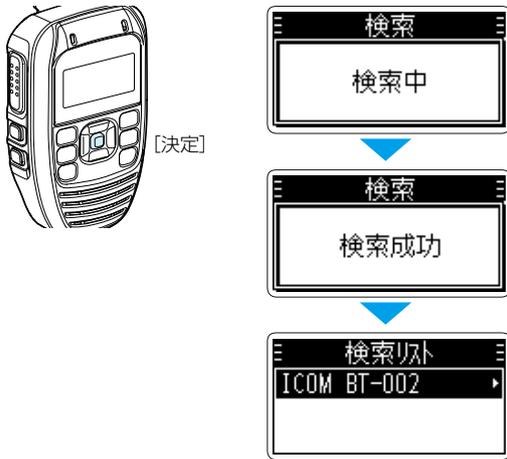
3.本製品からVS-3をペアリングする

1. [▲]/[▼]を押して、「検索」を選択します。



2. [決定]を押します。

- 「検索中」が表示されます。
- 「検索成功」が表示され、約1秒後に検索結果が表示されます。

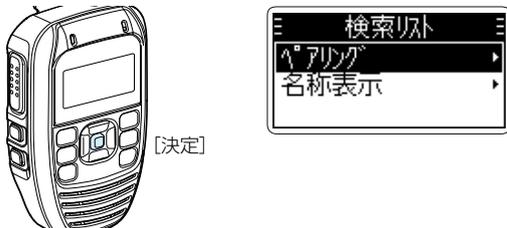


※「検索失敗」が表示された場合は、VS-3がペアリングモードになっているか確認して、もう一度、検索してください。

※再度検索したい場合は、[▲]/[▼]で「検索」を選択し、[決定]を押してもう一度、検索してください。

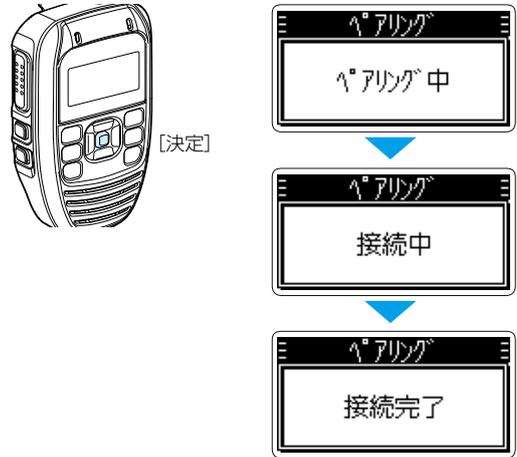
3. [決定]を押します。

- 検索リストが表示されます。



4. [決定]を押します。

- 「ペアリング中」、「接続中」、「接続完了」の順に表示されます。



※「ペアリング失敗」が表示された場合は、VS-3がペアリングモードになっているか確認して、もう一度、手順3の[▲]/[▼]で接続機器の選択から操作してください。

5. [PTT]を押します。

- 設定モードが解除され、チャンネル表示に戻ります。
- [Bluetooth機器 接続中]が表示されます。



【ペアリング後の動作について】

一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。

下記の条件を満たしている場合、自動で接続します。

- ◎無線機のBluetooth機能が「ON」
- ◎無線機が待ち受け状態
- ◎Bluetooth機器の電源が「ON」

※接続中は[Bluetooth機器 接続中]が点滅します。

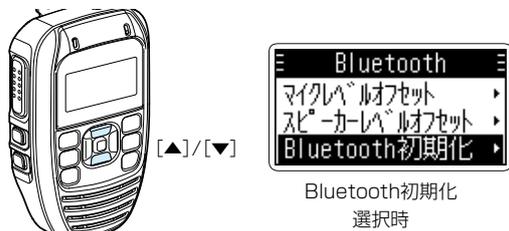
接続が完了すると[Bluetooth機器 接続中]が点灯します。

6 Bluetooth機能

■ Bluetoothの初期化

正しく動作しないと思われた場合は、下記の手順で本製品のBluetoothの初期化をしてください。

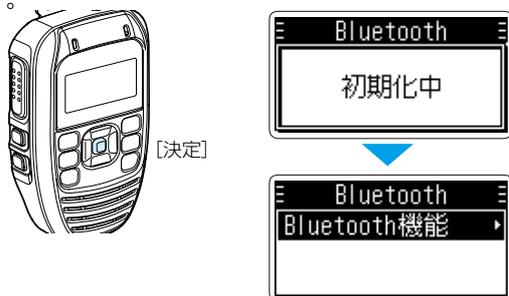
1. 本製品の電源を切った状態で、[P]を押しながら、[電源]を押しつづけます。
2. 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
 - 設定項目が表示されます。※設定モードを解除するまで通話できません。
3. [▲]/[▼]を押して、「Bluetooth」を選択し、[決定]を押します。
4. [▲]/[▼]を押して、「Bluetooth初期化」を選択し、[決定]を押します。



5. [▲]/[▼]を押して、「実行する」を選択し、[決定]を押します。



6. [決定]を押します。
 - 「初期化中」が表示され、初期化が実行されます。
 - 「Bluetooth 機能(OFF)」表示に戻ると初期化完了です。

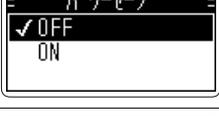
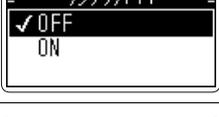
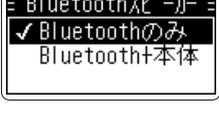
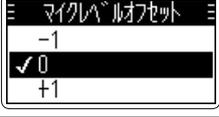
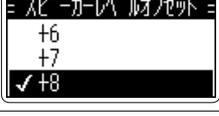
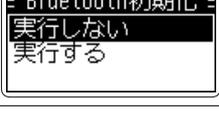


※[決定]を押さずに電源を切った場合は、Bluetooth機器の情報は初期化されません。

6 Bluetooth機能

■ Bluetoothの設定項目一覧

設定モードでBluetooth機能を有効にすると、関連する設定項目が表示されます。

項目名	説明	画面
Bluetooth機能	Bluetooth機能をON/OFFします。	
検索	Bluetooth機能対応ヘッドセットを検索し、ペアリングします。	
ペアリングリスト	ペアリング済み機器一覧が表示されます。	
登録解除	ペアリング済み機器一覧から削除します。	
Bluetooth音量	接続しているBluetooth機器の音量を、本製品と連動させるか固定させるかの設定です。	
パワーセーブ	接続しているBluetooth機器のパワーセーブ機能を設定します。	
ワンタッチPTT	VS-3の[PTT]を短く押すごとに送信と受信を切り替える機能を設定します。	
Bluetoothマイク	Bluetooth接続時、無線機や別売品の外部機器のPTT操作とマイクを制限するときに設定します。 ※初期設定の「Bluetooth+本体」では、Bluetoothヘッドセット、および別売品のPTT操作とマイクが有効になっています。	
Bluetoothスピーカー	Bluetooth接続時、無線機や別売品の外部機器のスピーカーを制限するときに設定します。 ※初期設定の「Bluetoothのみ」では、Bluetooth機器のイヤホンだけを使用するようになっています。	
マイクレベルオフセット	Bluetooth機器のマイクゲインをスピーカーマイクからのオフセット(-13~+15)で設定します。	
スピーカーレベルオフセット	Bluetooth機器の音量を本体出力からのオフセット(0~+12)で設定します。	
Bluetooth初期化	「実行する」を選択して、[決定]を押すと、Bluetoothの全設定を初期化します。	

7 サブチャンネルPTT機能

使用時のご注意

サブチャンネルPTT機能は、ネットワーク機能とは併用できません。

ご使用になるには、ネットワーク機能をOFFに設定してください。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ サブチャンネルPTT機能とは

コマンドマイク(別売品:HM-253)使用時の機能です。サブチャンネルPTT機能とは、コマンドマイクの[サイド1]、[サイド2]にサブチャンネルを割り当てることで、チャンネル切り替え操作をしないで最大3チャンネル間で送受信ができる機能です。

※送信できるキーが最大3つになります。

※サブチャンネルPTT機能と併用できない機能が設定されている場合、サブチャンネルPTT機能が使用できません。

詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

【使用例】

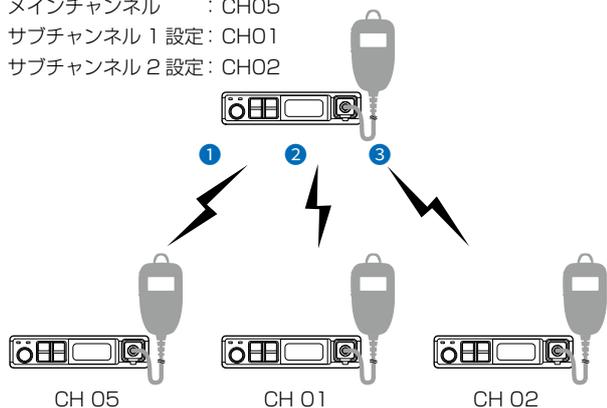


自局の設定

メインチャンネル : CH05

サブチャンネル1設定: CH01

サブチャンネル2設定: CH02



■ サブチャンネルを設定する

コマンドマイクの[サイド1]、[サイド2]にあらかじめ設定されているものとして説明します。

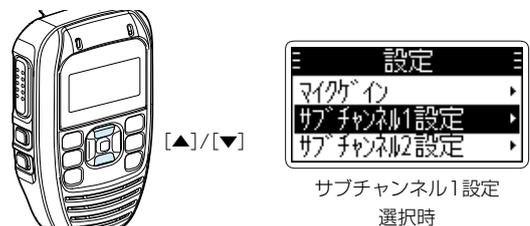
設定は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

1. 設定モードにする

1. 本製品の電源を切った状態で、本製品の[P]を押しながら、[電源]を押しつづけます。
2. 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
 - 設定項目が表示されます。※設定モードを解除するまで通話できません。

2. 送信チャンネルを割り当てる

1. コマンドマイクの[▲]/[▼]を押して、「サブチャンネル1設定」、「サブチャンネル2設定」を選択します。

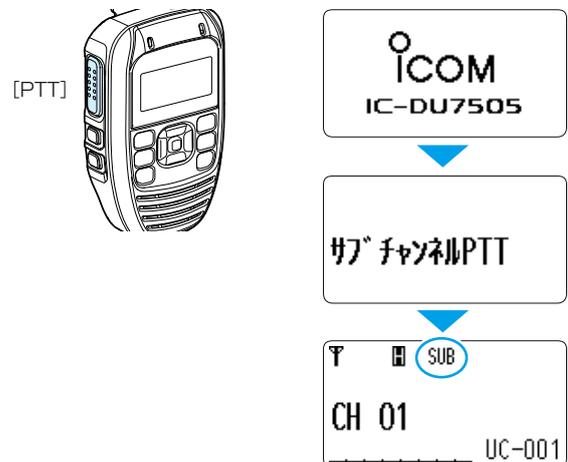


2. [決定]を押します。
 - チャンネル一覧が表示されます。
3. [▲]/[▼]を押して、割り当てるチャンネルを選択し[決定]を押します。
 - 設定範囲: CH01 ~ CH75※サブチャンネルを変更したい場合は、同様の手順で残りのサブチャンネルも変更します。

3. 変更を適用する

[PTT]を押して、変更を適用します。

- 無線機が再起動後、「SUB」が表示され、サブチャンネルPTT機能が使用できるようになります。



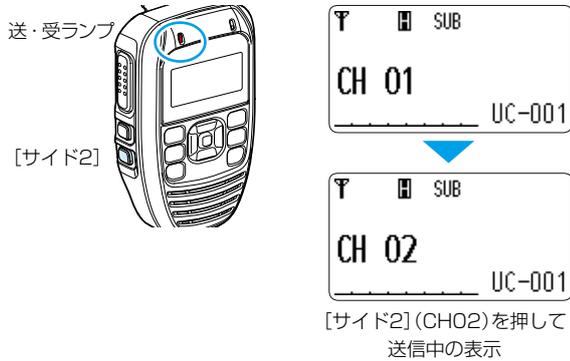
※設定値を変更後に電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

※設定モードを解除するまで通話できません。

7 サブチャンネル PTT 機能

■ サブチャンネルで送信する

[サイド1]、または[サイド2]を押しつづけると、割り当てられたメモリーチャンネルで送信します。



【表示中のメモリーチャンネルを変更するには】

「SUB」が点灯しているあいだ、無線機は常にサブチャンネルをスキャンしています。

サブチャンネルのスキャン中(「SUB」点灯)は、表示中のメモリーチャンネルを変更できません。

メモリーチャンネルを変更する場合は、以下の手順でサブチャンネルのスキャンを一時停止させて変更してください。

1. [メニュー/PTT]、または[個別番号帳]を短く押します。
 - 「SUB」が点滅し、サブチャンネルのスキャンが一時停止します。

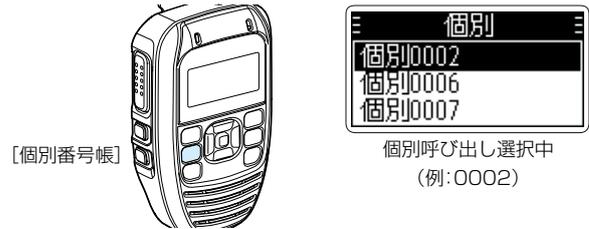


2. [▼]/[▲]を押して、相手と同じメモリーチャンネルに合わせます。

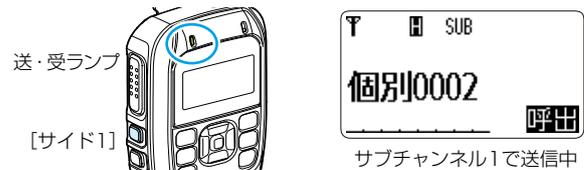
■ サブチャンネルで個別呼び出しをする

お買い上げの販売店で個別呼び出し機能が設定されている場合、サブチャンネルで個別呼び出しができます。

1. [メニュー/PTT]、または[個別番号帳]を短く押します。
 - 「SUB」が点滅し、サブチャンネルのスキャンが一時停止します。
2. 「SUB」が点滅しているあいだに、[個別番号帳]を繰り返し押し、呼び出す相手を選択します。



3. [▲]/[▼]を押して、相手の個別番号、またはグループ番号を選択し、[決定]を押します。
4. 他局が通信していないこと(送・受ランプ:消灯)を確認し、[サイド1]、または[サイド2]を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。



■ サブチャンネルで受信する

サブチャンネルで受信すると、サブチャンネルに設定されたメモリーチャンネル表示になります。



応答するときは、そのサブチャンネルが設定されている[サイド1]、または[サイド2]を押します。

※サブチャンネルで受信したとき、[PTT]で応答できるようにするには、設定が必要です。お買い上げの販売店にご依頼ください。

ご注意

「SUB」が点灯しているあいだ、無線機は常にサブチャンネルをスキャンしています。

[メニュー/PTT]、または[個別番号帳]の操作後など、サブチャンネルのスキャンが一時停止中(「SUB」点滅)は、サブチャンネルで受信できませんので、ご注意ください。

本製品の設定モードから、設定できる機能を変更する方法について説明します。

設定できる項目は、お買い上げいただいたときの設定によって異なります。

詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 設定一覧

コマンドマイク(別売品:HM-253)に表示される設定項目について説明しています。

設定項目	初期値	参照
ビープ > Pベル* ¹	OFF	P.8-2
マイクゲイン	0dB	P.8-2
呼出制御の設定 > 発着履歴消去* ¹	実行しない	P.8-2
サブチャンネルPTT* ²	CH 01	P.8-2
スピーカー出力	自動判別	P.8-3
表示設定 > バックライト	常時点灯	P.8-3
本体表示輝度	2	P.8-3
マイク表示輝度	5	P.8-3
Bluetooth > Bluetooth機能	OFF	P.8-3

★1 個別呼び出し機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

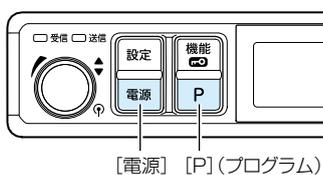
★2 設定には、[サイド1]、または[サイド2]にサブチャンネルPTT機能が割り当てられている必要があります。

■ 設定モードに移行するには

【操作のしかた】

1. 本製品の電源を切ります。
2. [P]を押しながら、[電源]を押しつづけます。

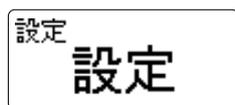
※[電源]はどちらのキーでも動作します。



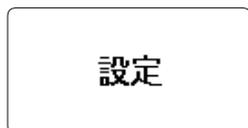
[電源] [P] (プログラム)



[電源]



無線機本体の表示



コマンドマイクの表示

3. 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
 - 設定項目が表示されます。
 - ※設定モードを解除するまで通話できません。
4. 「■ 設定のしかた」の操作をすると、設定値を変更できます。

■ 設定のしかた

設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

1. [▲]/[▼]を繰り返し押し、設定項目(例：スピーカー出力)を選択します。



[▲]/[▼]

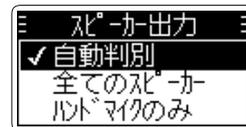


2. [決定]を押します。

• 現在の設定値(例：自動判別)が表示されます。



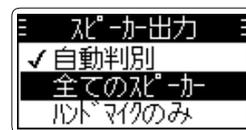
[決定]



3. [▲]/[▼]を繰り返し押し、設定値を選択します。(例：全てのスピーカー)



[▲]/[▼]



4. [決定]を押します。

• 設定値が確定されます。

※ほかの機能も変更するときは、1～4の操作を繰り返します。



[決定]

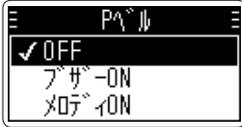


5. 設定モードを解除するときは、[PTT]を押します。
 - ※設定値を変更後に、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

8 各種機能の設定

■ 設定項目について

Pベル (初期設定:OFF)



Pベル機能を設定します。

Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(消音)します。

※この項目は、お買い上げの販売店で、個別呼び出し機能が設定されている場合だけ表示されます。

- OFF : Pベル機能を使用しない
- ブザーON : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてブザーが鳴る
- メロディON : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてメロディーが鳴る
- ブザーOFF : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートするがブザーは鳴らない

【ブザーON、メロディON、ブザーOFFに設定した場合】

◎表示部には、「P」が表示されます。

◎ポケットビープ機能と併用する場合、基地局/個別呼び出しを受けたとき、Pベル機能のブザー(ピー音、3回)、またはメロディー音(1回)が鳴ったあとに、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音、またはメロディー音(3回)が鳴ります。

また、「ブザーOFF」に設定すると、基地局/個別呼び出しを受けても、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音やメロディー音は鳴りません。

マイクゲイン (初期設定:0dB)



マイクの感度を設定します。

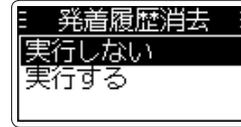
- 選択範囲：-15dB(低)～0dB(中)～18dB(高)

※3dB単位で選択できます。

※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きな声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

また、周囲の雑音が少ない場所では、高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

発着履歴消去 (初期設定:実行しない)



記憶された発信履歴、および着信履歴を消去します。

※「実行する」を選択して、「決定」を押した時点で、履歴が消去されます。

- 実行しない : 履歴を消去しない
- 実行する : 履歴を消去する

サブチャンネルPTT (初期設定:CH 01)



コマンドマイク(別売品:HM-253)使用時、

側面の[サイド1]/[サイド2]にサブチャンネル1、またはサブチャンネル2を設定することで、チャンネル切り替え操作をせずに、最大3チャンネル間で送受信ができます。ここでは、すでに割り当てられたサブチャンネルを変更できます。

※サブチャンネルPTT機能を使用するには、あらかじめネットワーク機能をOFFにし、[サイド1]、または[サイド2]にサブチャンネルPTT機能を割り当てる必要があります。

また、併用できない機能もありますので設定については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

※サブチャンネルPTT機能の使いかたについては、7章をご覧ください。

- 選択範囲:CH 01～CH 75

8 各種機能の設定

■ 設定項目について

スピーカー出力 (初期設定:自動判別)



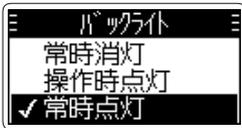
外部スピーカーを接続したとき、マイクロホン(別売品: HM-253、HM-254)から受信音を出力するかしないかを設定します。

- 自動判別 : 外部スピーカーだけに音を出す
- 全てのスピーカー : 外部スピーカーとマイクロホンの両方に音を出す
- ハンドマイクのみ : マイクロホンだけに音を出す

ご注意

市販の外部スピーカー(ステレオプラグ)を接続した場合、外部スピーカーから音が出ないことがあります。
※別売品(9章)の外部スピーカーをご使用ください。

バックライト (初期設定:常時点灯)



送信以外の操作をすると、表示部の照明を自動点灯させるかさせないかを設定します。

- 常時消灯 : 点灯しない
- 操作時点灯 : 送信以外の操作をすると、照明が約5秒点灯する
- 常時点灯 : 電源を切るまで消灯しない

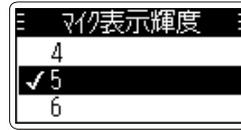
本体表示輝度 (初期設定:2)



無線機本体(表示部)について、照明の明るさを設定します。

- 選択範囲: 1～3

マイク表示輝度 (初期設定:5)



コマンドマイク(別売品:HM-253)について、表示部と各キーの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲: 1～7

Bluetooth (初期設定:OFF)



Bluetooth機能を使用して、Bluetoothヘッドセットを接続するときに設定します。

※ペアリング/接続のしかたについては、6章をご覧ください。

- OFF : Bluetooth機能を使用しない
- ON : Bluetooth機能を使用する

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ ホームページに掲載

別売品一覧については、弊社ホームページ

<https://www.icom.co.jp/> でもご覧いただけます。

■ 別売品一覧表

★ IP54の防塵/防水性能があります。

上記、防塵、防水性能は、「IP表記」(P.ii)をご覧ください。

外部スピーカー

SP-30 :外部スピーカー(20W/4Ω)
※ケーブル長:約2.8m

SP-35/SP-35H
:外部スピーカー(5W/4Ω)
※ケーブル長:約2m

SP-35L :外部スピーカー(5W/4Ω)
※ケーブル長:約6m

外部電源

PS-230A :卓上電源装置(スピーカー内蔵:7W/8Ω)

マイクロホン関係

AM-6 :マグネット基台付きマイクロホン
※ケーブル長:約2.5m
※自動車のダッシュボードなどに、マグネットまたは付属のネジで固定できます。

SM-28 :デスクトップマイクロホン

HM-249 :車載用ハンズフリーマイクロホン

HM-253* :コマンドマイク
※OPC-2355を使用したときは、本製品、およびHM-253の防塵/防水性能を維持できません。

HM-254* :防水スピーカーマイクロホン
※OPC-2355を使用したときは、本製品、およびHM-254の防塵/防水性能を維持できません。

OPC-2355 :マイクロホン延長ケーブル(約2.5m)
※HM-249、HM-254、HM-253のいずれかでお使いになれます。
※最大2本まで接続してお使いになれます。

OPC-2500 :マイクロホン/リモートPTTボタンケーブル延長用ケーブル
※HM-249でお使いになれます。

VS-3 :Bluetoothヘッドセット

そ の 他

UX-267 :GPSユニット

※ネットワーク接続ユニット(付属品:UX-268)と差し替えて、ネットワーク機能をOFFにした状態で使用できます。

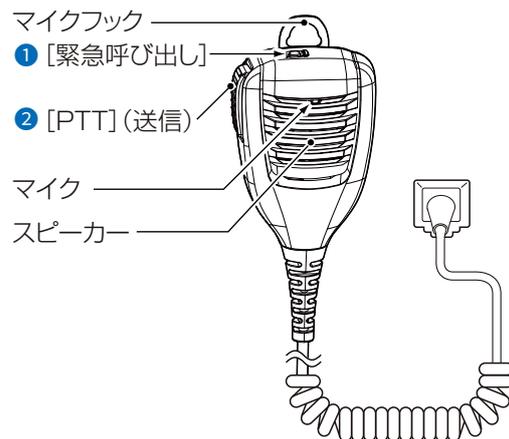
詳細な設定については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ネットワーク機能がONに設定されたままで、GPSユニットを接続すると、供給する電圧が異なるため、GPSユニットが故障する原因となります。

■ HM-254(防水スピーカーマイクロホン)

緊急呼び出し機能に対応した防水スピーカーマイクロホンです。

本製品に接続することで、IP54の防塵/防水性能がありません。



① [緊急呼び出し]

緊急呼び出し機能(P.5-13)が設定されている場合、長く(5秒以上)押し続けると、緊急呼び出しを開始します。

② [PTT] (送信)

押し続けている間は送信状態、はなすと待ち受け状態になります。

9 別売品とその使いかた

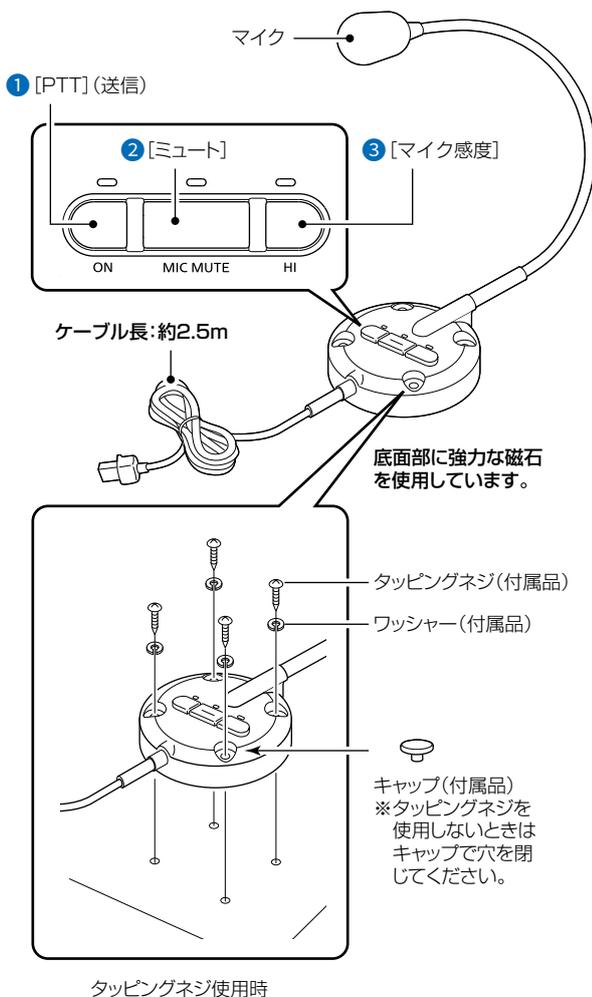
■ AM-6(マグネット基台付きマイクロホン)

単一指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホンです。

自動車のダッシュボードなど、底面のマグネットで取り付けできない場所での使用に適しています。

マグネットで固定できない場所へは、下図のように付属のネジで固定してください。

※外部スピーカー(別売品)と併せてご使用ください。



底面に強力な磁石を使用しています。

△警告

心臓ペースメーカーなど電子医療機器をお使いのかたは、心臓ペースメーカーなどの植え込み部位の上にマイクロホンの底面を近づけたり、当てたりしないでください。

電子医療機器などの動作に影響を与え、生命の危険があります。

△注意

時計、コンパスや精密機器、キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気/ICカードを近づけないでください。

製品の誤動作の原因になったり、磁気/ICカードの内容が消去されたりすることがあります。

① [PTT] (送信)

押すと送信状態に、もう一度押すと待ち受け状態になります。

※送信状態のあいだは、ランプが青色に点灯します。

※本製品の電源を入れる前に、[PTT]が押されていない状態であることを確認してください。

② [ミュート]

押すとマイクをミュート(消音)し、もう一度押すとミュートを解除します。

※ミュートにしているあいだは、ランプが赤色に点灯します。

③ [マイク感度]

押すとマイク感度が高くなり、もう一度押すと低くなります。

※感度が高いあいだは、ランプが緑色に点灯します。

※マイクとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、切り替えてください。

ご参考

◎製品の構造上、アーム部を曲げる位置によっては自立できませんので、底面のマグネットで固定できるように別途鉄板などをご用意ください。

◎製品に付属のネジで固定するとき、基台にある4カ所のネジ穴がキャップでふさがれている場合は、ペン先などでキャップの裏側から押しはずしてください。

◎送信音声に操作音(ノイズ)が発生する場合がありますので、アーム部の角度調整や[PTT]の操作をするときは、[ミュート]を押してミュート状態にしてください。

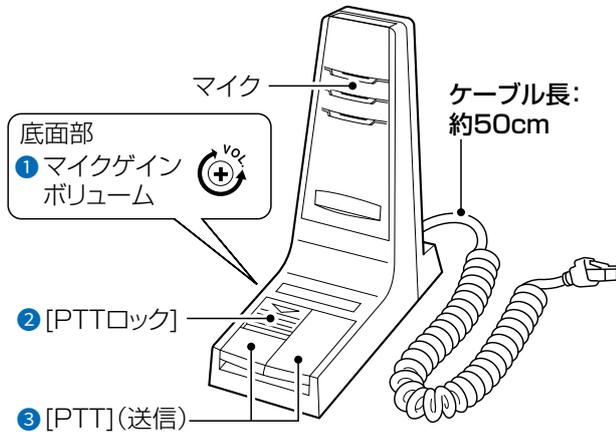
9 別売品とその使いかた

■ SM-28(デスクトップマイクロホン)

マイクアンプ内蔵の単一指向性ダイナミックマイクロホンです。

デスク上など、平面での使用に適しています。

※外部スピーカー(別売品)と併せてご使用ください。



① マイクゲインボリューム

マイクとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、マイクの感度を調整します。

※ボリュームを左に回すと、感度が高くなります。

② [PTTロック]

押しながら三角印の方向にスライドすると、[PTT] (送信)がロックされ、ハンズフリーで送信できます。ロックを解除するときは、反対方向にスライドします。

③ [PTT] (送信)

押し続けているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態に戻ります。

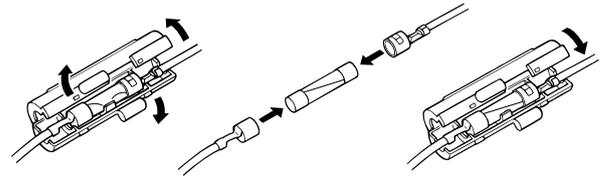
10 保守について

■ 日常の保守と点検について

- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
- ◎音量が最小に調整されていないか、無線機本体のツマミ、またはコマンドマイクの[◀]/[▶]を押して、表示される音量レベルを確認してください。

■ ヒューズの交換について

- DC電源ケーブル(付属品)には、2本のヒューズ(125V/5A)が使用されています。
- ※ヒューズが切れて動作しなくなったときは、原因を取り除いてから新しいもの(付属品)と交換してください。
 - ※下図のヒューズカバーには、「5A」のシールが貼られています。

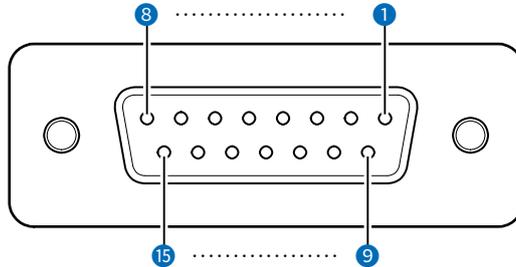


10 保守について

■ 外部機器接続ケーブルの端子について

各機能を使用するには、お買い上げの販売店で設定が必要です。

◇D-sub 15ピン

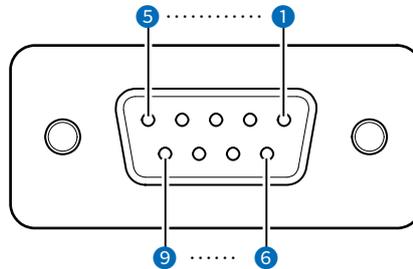


端子番号	端子名	I/O	内容	条件
1	5C	O	DC 5V出力	DC 5V±10% Max100mA
2	GND	—	GND	—
3	TXD1	O	UART通信ポート	5V CMOSレベル出力(5V 1kΩ内部プルアップ) ※外部BER出力:DATA
4	RXD1	I	UART通信ポート	5V CMOSレベル入力(5V 47kΩ内部プルアップ)
5	BUSY	O	受信状態出力	SQL信号出力 :BUSY時H ※設定による AMUTE出力 :AF 出力時H ※設定による (5V 47kΩ内部プルアップ) ※外部BER出力:CLK
6	$\overline{\text{EPTT}}$	I	外部PTT	H(オープン) :送信停止 L(GND に接続) :送信 (3.3V 22kΩ内部プルアップ)
7	EAFO	O	外部音声出力	72mVrms typ. (音量最大、10kΩ負荷時) (1031Hz パターン -22dBm0) ※音量固定、または音量調整と連動
8	EMIC	I	外部マイク入力	標準マイク感度9mVrms±3dB ※入力インピーダンス10kΩ
9	MICE	—	マイクGND	
10	IO 1	I/O	プログラマブル入出力	(5V 4.7kΩ内部プルアップ)
11	IO 2	I/O	プログラマブル入出力	(5V 4.7kΩ内部プルアップ)
12	IO 3	I/O	プログラマブル入出力	(5V 4.7kΩ内部プルアップ)
13	IO 4	I/O	プログラマブル入出力	(5V 4.7kΩ内部プルアップ)
14	IO 5	I/O	プログラマブル入出力	(5V 4.7kΩ内部プルアップ)
15	IO 6	I/O	プログラマブル入出力	(5V 4.7kΩ内部プルアップ)

10 保守について

■ 外部機器接続ケーブルの端子について

◇D-sub 9ピン



端子番号	端子名	I/O	内容	条件
1	8C/5C	O	DC 8V、またはDC 5V	ネットワーク機能ON時： DC8V ±10% Max300mA ネットワーク機能OFF時： DC5V ±10% Max300mA
2	TXDO	O	RS-232C通信(TXD)	RS-232Cレベル出力(-5~+5V)
3	RXDO	I	RS-232C通信(RXD)	RS-232Cレベル入力(-15~+15V)
4	RXD	I	通信ポート(UART:RXD)	5V CMOSレベル入力(5V 47kΩ内部プルアップ)
5	GND	—	GND	—
6	TXD	O	通信ポート(UART:TXD)	5V CMOSレベル出力(5V 1kΩ内部プルアップ)
7	CTSO	I	RS-232C通信(CTS)	RS-232Cレベル入力(-15~+15V) ※RS-232Cフロー制御
8	RTSO	O	RS-232C通信(RTS)	RS-232Cレベル出力(-5~+5V) ※RS-232Cフロー制御
9	OPT1	I	外部UNIT接続検出	最大5Vアナログ電圧入力★ (5V 22kΩ内部プルアップ)

★ 誤検出を防ぐため、不要な接続はお控えください。

10 保守について

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。(P.10-5)

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	接続端子の接触不良	安定化電源装置、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)との接続を確認する	—
	DC電源ケーブルのヒューズが切れている	原因を取り除いたあとで、新品のヒューズと交換する	P.10-1
「 ⊗ 回線エラー 」と表示される	操作機、または送受信機の電源が入っていない	電源が入っていることを確認する	P.2-1
	ネットワーク接続ユニット(付属品:UX-268)が接続されていない、または正しく接続されていない	ネットワーク接続ユニット(付属品:UX-268)が正しく接続されているか確認する	P.1-7
	操作機、または送受信機を設定モードにしている	電源を入れなおして、設定モードを解除する	P.2-1
	操作機と送受信機がIPネットワークと接続されていない	LANケーブルの接続、およびHUBなどのネットワーク機器との接続を確認する	—
	IPネットワークの障害	ネットワーク管理者に確認する	—
「 ユニットエラー 」と表示される	ネットワーク接続ユニット(付属品:UX-268)が接続されていない、または正しく接続されていない	ネットワーク接続ユニット(付属品:UX-268)が正しく接続されているか確認する	P.1-7
スピーカーから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する	P.2-1
	外部スピーカーの設定が正しくない	設定モードで、外部スピーカーの設定を確認する	P.8-3
	マイクロホン、または外部スピーカー端子の接触、または接続されていない	マイクロホン、または外部スピーカーが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する	—
移動局と通話できない	通話チャンネルが合っていない	移動機と同じ通話チャンネルに合わせる	P.3-2 P.4-2
	ユーザーコードが合っていない	移動機と同じユーザーコードを設定する	P.5-4
	秘話機能が移動機に設定されていない、または自分の秘話IDと秘話キーの設定が異なる	お買い上げ時、秘話IDと秘話キーが設定されている場合、秘話IDと秘話キーが異なる移動機とは通話できません	P.5-3
	個別番号、またはグループ番号を間違えている	移動機の個別番号、またはグループ番号を確認する	P.5-6
移動局から応答がない	移動機が本製品(操作機、または送受信機)の通話エリア外に出ている	移動機が本製品(操作機、または送受信機)の通話エリア内に戻るまで、しばらく時間をあけてから、呼び出してみる	—
	移動局が不在、または移動機の電源を切っている	移動局に戻る、または移動機の電源を入れるまでしばらく時間をあけてから、呼び出してみる	—

10 保守について

■ 故障かな?と思ったら

現象	原因	処置	参照
移動機の電波が中継できない	ユーザーコードが設定されていない通話チャンネルを選択している	ユーザーコードが選択された通話チャンネルに変更する	P.5-4
「キーロック中」、または「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	コマンドマイク(別売品:HM-253)の[メニュー/⏏]を長く押し、ロックを解除する	P.5-1
モニター機能が使用できない	[P]の動作が、モニター機能以外の操作に割り当てられている	お買い上げの販売店に、[P]の動作変更をご依頼ください	—
本書で説明されている機能が使用できない	お買い上げ時、あらかじめ設定されていない機能である	使用できる機能については、お買い上げの販売店にお問い合わせください	—

■ アフターサービスについて

「故障かな?と思ったら」(P.10-4)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先:アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール:support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ:https://www.icom.co.jp/

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～

